

令和2年度
川西市参画と協働のまちづくり推進会議

提 言 書

令和3年3月

はじめに

高度経済成長期には、市民の生活が豊かになるとともに、市の財政も潤沢になったことで、どうすれば市民のみなさんの利益が最大化するかを市が主体となり考え、対応することができました。しかし、人口減少の時代に入り、税収も減少していくことが見込まれる中、今までどおりの行政サービスを維持し続けることは残念ながら難しくなってきました。また、市民みなさんの価値観も多様化していく中で、全てを行政で担っていくことも現実的ではありません。これからの時代にあっては、地域の身近な課題に対して、市民のみなさんの力を活かして解決につなげていくことの必要性が高まってきています。

従来、地域の身近な課題については、自治会などの地縁団体が中心となり担ってきました。しかし、これらの団体の活動の中心は、会社を定年退職した方や、自営業者、主婦層でしたが、人口の減少に加え、定年の延長や個人事業主の減少、共働き世帯の増加などにより、担い手となる層も減少しています。また、NPO法人をはじめとした市民活動団体についても、マネジメント人材やスタッフ人材が不足気味と言われています。一方で、「きっかけがあれば、できる範囲であれば手伝いたい」と考えている方、また、「自分が今まで培ってきた知識や技術を地域に還元したい」と考えている方などは、一定数おられます。災害時や緊急時の助け合いのみでなく、地域をよりよくして、生活しやすい環境づくりをすることは、みんなが望んでいることです。価値観が多様化し、地域の課題も多様化する中で、もっと簡単に地域と関わるきっかけづくりが必要ではないかと考えています。

そのような状況の中、参画と協働のまちづくり推進会議では、昨年度から「地域を好きになる～あなたも関わりを見つけよう～」というテーマで、今後の市の取り組みについて検討しました。今回の推進会議は、13名の公募市民の方に委員に就任いただき、コミュニティ組織の代表や学識経験者と合わせて合計20人で議論を進めてきました。公募委員には、40歳以下の若者枠を設けて募集したこともあり、若い世代の方にも委員に就任いただくことができ、どのようにすれば、「あまり関心がない人に関わってもらえるか」、「きっかけがあればと考える人に参加してもらえるか」を2つの部会に別れ、検討を続けてきました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、2年度にわたる議論となりましたが、それぞれ地域活動や市民活動に取り組んでいる委員が、各部会長を中心に具体的なアイデアを出し、実践を含めて検討したことで、実効性が高い提言を行うことができたと考えています。提言がめざすものは、これで完成というものではありません。今後、川西市の担い手不足の解消に実際に活用していただき、市民の方々とともに、さらに磨き上げていただきたいと思います。

川西市参画と協働のまちづくり推進会議
会長 岩崎 恭典

参画と協働のまちづくり推進会議委員名簿

令和元年6月28日から令和3年3月31日

氏名	選出区分	備考
岩崎 恭典	学識経験者	会長
田中 晃代	学識経験者	副会長、A部会長
藤本 真里	学識経験者	副会長、B部会長
加門 文男	市民公益活動団体代表	A部会
鈴木 光義	市民公益活動団体代表	A部会 R2.6.28 から
乾 美由紀	市民公益活動団体代表	A部会
横谷 弘務	市民公益活動団体代表	B部会
釜本 孝彦	市民公益活動団体代表	B部会 R2.6.27 まで
久保 圭志	市民公募委員	A部会 R2.6.27 まで
赤木 牧子	市民公募委員	A部会
田中 真	市民公募委員	A部会
名木田 絢子	市民公募委員	A部会
三善 知子	市民公募委員	A部会
延命寺 陽子	市民公募委員	B部会
金剛丸 朋子	市民公募委員	B部会
相良 雅江	市民公募委員	B部会 R2.6.27 まで
田中 真優	市民公募委員	B部会
中村 佳子	市民公募委員	B部会
堀田 大樹	市民公募委員	B部会
山澤 剛	市民公募委員	B部会
吉尾 豊	市民公募委員	B部会

川西市 参画と協働のまちづくり推進会議

A 部会(ひらいてむすんで)報告

目 次

■提言書 (A1-1)

1. 現状と課題
2. 解決のための待ッティングカードづくり
 - 2-1 カードのイメージ
 - 2-2 カードの見方
 - 2-3 その方法
 - 2-4 その効果
3. 実践のための工夫
 - 3-1 二次元コードの活用
 - 3-2 カードづくりの展開
 - 3-3 継続のしかけ
 - 3-4 カードの活用方法
 - 3-5 カードの設置場所
4. 今後のために
5. 検討メンバーからのメッセージ(コラム集) 検討メンバー一覧 (A1-2)

■補足資料(部会における検討内容から)

- A 現状と課題 (A2-1)
- B 解決策 (A2-2)
- C 模擬ワークショップからわかったこと (A2-3)
- D 今後のために (A2-4)

【事務局資料】(R1～R2年度) A 部会会議録一覧(A2-5)

川西市 参画と協働のまちづくり推進会議
A部会(ひらいてむすんで)報告

A部会のテーマ

(地域・市民活動に対して、)
やる気があり積極的だが
取り組めていない人を巻き込んでいくには

目次

1. 現状と課題 1分(加門)
スライド 1-5
2. 解決のための
待タッチングカードづくり
4分(赤木)スライド 6-15
 - 2-1 その方法
 - 2-2 カードのイメージ
 - 2-3 カードの見方3分(名木田)スライド16-20
 - 2-4 その効果

3. 実践のための工夫
1分30秒(田中)スライド21- 24
 - 3-1 二次元コードの活用2分30秒(三善)スライド25-27
 - 3-2 カードの活用方法
 - 3-3 継続のしかけ2分(乾)スライド28-30
 - 3-4 カードの設置場所
4. 今後のために 1分(鈴木)
スライド31(未)

現状



課題

「ちょっと試しに
やってみる」という
活動のきっかけが
必要

組織に風穴
続けやすく
入りやすい組織へ

活動の基盤づくり

若い世代を
巻き込む



なぜ、待ッティングカードづくり？

やる気があるが積極的に取り組めていない人をどうま
きこんでいくかを考えたときに
取り組めていない原因として、
「知らない」「はいりにくい」ことが多いのではないか
自治体・コミュニティ・市民活動団体が
「どんな活動をしているか」を知る
「きっかけ」として【待ッティングカード】を作成



2-1 カードのイメージ

カード作成に当たって心掛けたのは、
「手に取りやすい」
「目をひく」

ことです

わたしたちの第一目標としてカードを
「手にとってもらおう」

が大切だと考えました

2-1 カードのイメージ

表面

裏面



表裏に印刷して使用

退職直前の男性(63才・会社員)

あなたの能力が地域活性化につながる!

こんな方にピッタリ!!

- 退職して、急に人付き合いが減ってしまいそう。
- 自分の時間・スキルを有効活用したい。
- 地域の事を知りたい。
- 近所の友達が欲しい。
- なにかしたいが、やることがない

etc....

人付き合いが苦手でも、事務仕事から入れば自然と交流に!

1つでも当てはまったら一緒に●●●しませんか?

経理41年の
経験が役立ち
ました

検索

2-1 カードのイメージ

表面

裏面



表裏に印刷して使用

独身の男性(28歳・公務員)

あなたの能力が地域活性化につながる！

こんな方にピッタリ！！

- ✓ 活動するのは土曜日9時～12時
- ✓ 来れるときだけ参加OK！
- ✓ 誰かの役に立ちたい気持ちを活かしたい
- ✓ 報奨あり

etc....

人付き合いが苦手でも、事務仕事から入れば自然と交流に！

1つでも当てはまったら一緒に汗をかきませんか？

人手不足で困っています。
一緒に土いじりしましょう！！

川西南の方のコミュニティ

2-2 カードの見方

※作成する際は左右ではなく必ず裏表で作成する。

The diagram illustrates the layout of a waiting card, divided into two main sections: a light blue section on the left and a pink section on the right. A yellow character is shown in a thinking pose in the blue section and a smiling pose in the pink section.

Left Section (Light Blue):

- Top: Four white thought bubbles.
- Text box: ターゲットとなる人の具体的な人物像や気持ちを記入
- Text box: どのような人に来てほしいか？ターゲットを絞る
- Form: 年齢: (子供) 才、性別: 人・仕事:

Right Section (Pink):

- Header: こんな声かけをしてね
- Decorative: Five red flower icons.
- Text box: 誘いたい団体(自治会やコミュニティ)、支えたい団体(市民活動団体)などがアドバイスやPRを記載
- Text box: 募集团体への様々なアプローチ方法を記載
 - ・SNS
 - ・メールアドレス
 - ・電話番号
 - ・QRコード等
- Form: Search bar with 検索 button and a QR code. Text: 検索は、こちら

2-3 その方法

■参加者について

第三者の存在が重要なので、次回の対象組織に声をかけるなどして、参加を促す。

第三者の参加により、対象組織に素直な疑問が投げかけられる。その結果、自分たちでは思いつかなかったような発見や工夫に繋がり、議論が盛り上がる。

「待ッティングカード」づくりワークショップ 進行表

日時 ○○年○○月○○日	場所 ○△公民館（川西市○○○-○-○）
参加者 ・子育て支援グループ○○	○○さん、○○さん、○○さん
・○○コミュニティ協議会	○○さん、○○さん、○○さん、○○さん
スタッフ Aさん、Bさん、Cさん	



2-3 その方法

■ワークショップの手法について

基本は、出た意見を1枚の付箋につき1つ記入していき、それを移動したり、グループ化したりして全体を整理していく「KJ法」を活用。

場合によっては付箋をA4用紙などで代替し、床に並べるなどして実施することも可能。

2-3 その方法

■ワークショップの進め方

具体的な属性を想定することで、より具体的な課題解決に繋がる。

普段の活動を振り返り、工夫を生む機会にもなる。

カードとして形にならなくても、振り返りが出来ればOK

プログラム				
時間		概要	ポイント	担当者
10:00-10:05	(5)	ご挨拶、諸注意		Aさん
10:05-10:10	(5)	「参画と協働のまちづくり推進会議 A部会」について説明		Aさん
10:10-10:15	(5)	自己紹介	所属、名前、+α	Aさん
10:15-10:25	(10)	カードづくりについて説明		Aさん
10:25-10:45	(20)	団体紹介：子育て支援グループ〇〇	事業内容、現状、課題などを聞き出す	Bさん
10:45-10:50	(5)	対象を絞る	ターゲットとなる人の具体的な属性を定める	Bさん
10:50-11:05	(15)	その人の思い、置かれている状況は？	ターゲットの属性から、参加の障壁となりそうなことを想定する	Bさん
11:05-11:35	(30)	思いに応える工夫、提案、声かけは？	参加の障壁を取り除くための工夫や声かけを考える	Bさん
11:35-11:45	(10)	意見の整理	付箋を並び替えたりして、カードを形にする	Bさん
11:45-11:55	(10)	ふりかえり（全員で）	カードづくりで見えたこと、感想など	Aさん
11:55-12:00	(5)	終わりのご挨拶、アンケート記入		Aさん

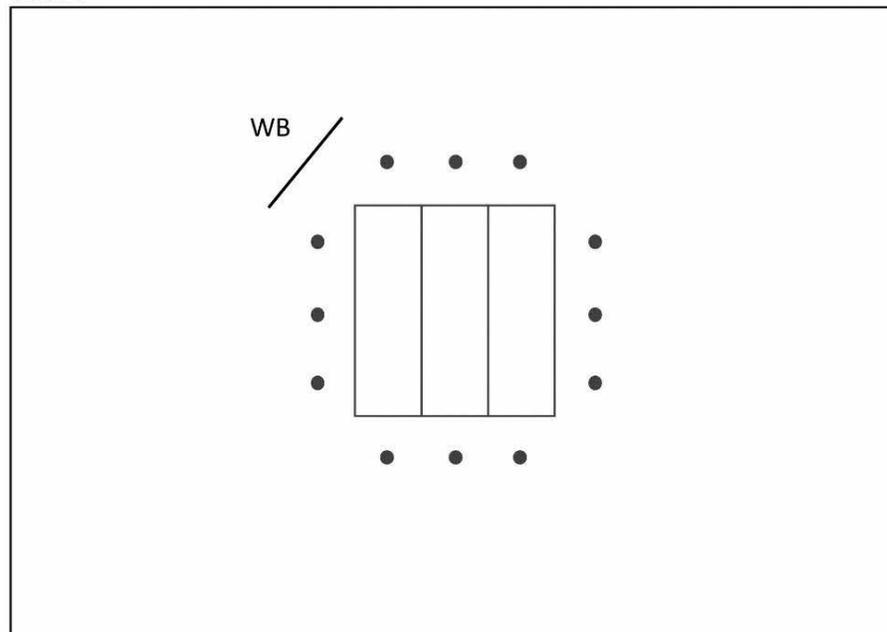
2-3 その方法

■ 役割分担・会場図・準備物

役割分担

全体進行 Aさん	カードづくり進行 Bさん
全体記録 Cさん	カードづくり記録 Cさん
会の説明 Aさん	カメラ Aさん
カードづくりの説明 Aさん	

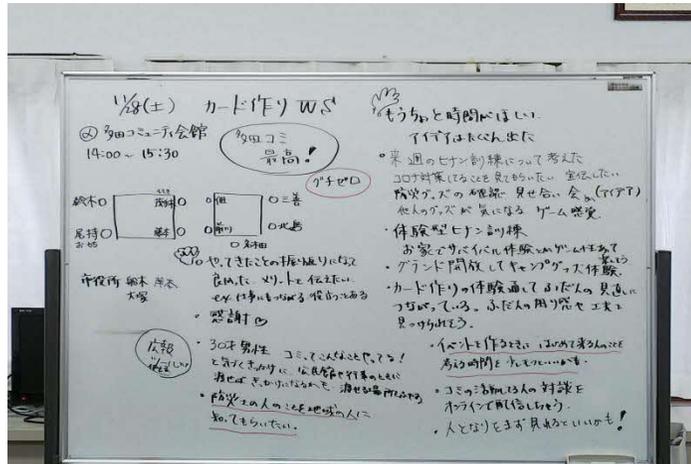
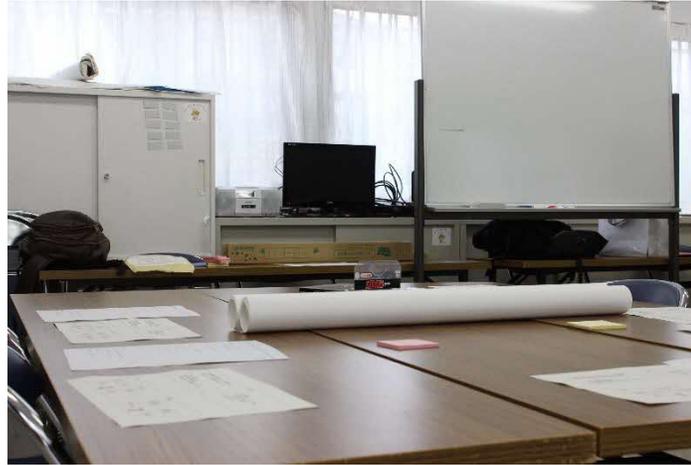
会場図



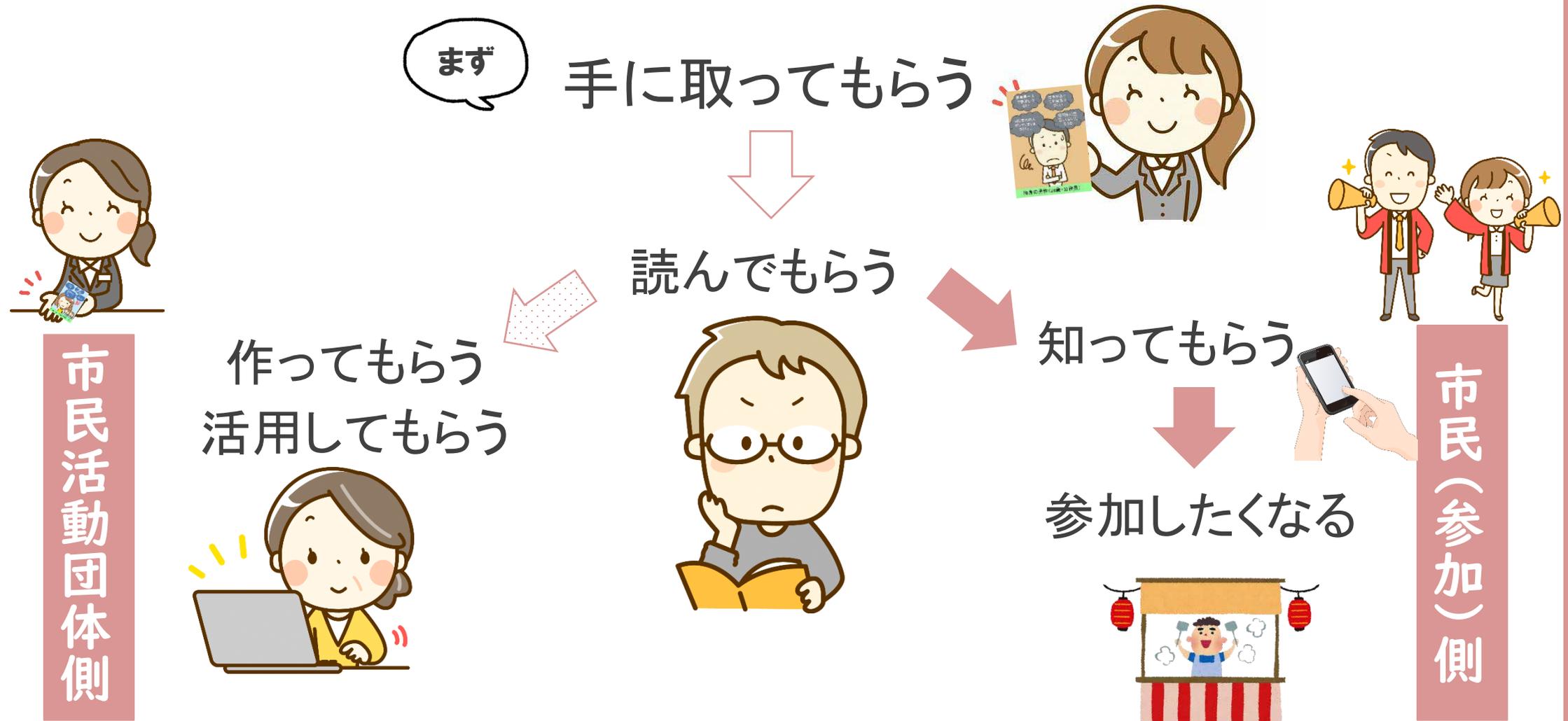
準備物

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 机 | <input type="checkbox"/> 付箋 | <input type="checkbox"/> 養生テープ |
| <input type="checkbox"/> 椅子 | <input type="checkbox"/> ホワイトボード | <input type="checkbox"/> お茶 |
| <input type="checkbox"/> 進行表 | <input type="checkbox"/> ホワイトボードマーカー | <input type="checkbox"/> お菓子 |
| <input type="checkbox"/> カードの説明資料 | <input type="checkbox"/> 白板消し | <input type="checkbox"/> 紙コップ |
| <input type="checkbox"/> カードのサンプル | <input type="checkbox"/> A4用紙 | <input type="checkbox"/> ゴミ袋 |
| <input type="checkbox"/> 模造紙 | <input type="checkbox"/> A3用紙 | <input type="checkbox"/> 鈴 |
| <input type="checkbox"/> 水性マジック | <input type="checkbox"/> 筆記用具 | |

実際の様子



2-4 その効果



2-4 その効果

【地域課題の発見】

地域・人材の新たな魅力を再発見
イベントのマンネリ化を防ぐ



現状の問題点が洗い出される
地域課題を振り返る「きっかけ」となる

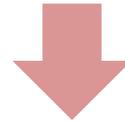
活動している人や団体も活性化させる



2-4 その効果

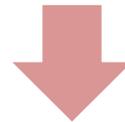
【カードの作成】

ワークショップでカードを作成する



新たなアイデアが生まれる

団体の魅力を参加者に伝えることができる



(団体側)カード作りを何度もしたくなる

(参加者)イベントをのぞいてみたいくなる



カードづくりをしている団体の満足度が高い



カード作成の過程で活動内容の見直しや絡まった思いをほどいてゆくの、カードづくりをしている団体の満足度が高い。

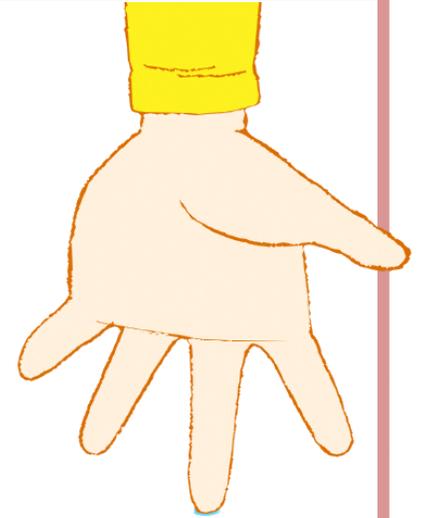
できたカードで興味ある人を誘うことが目的であるが、実際にカードづくりをやってみると、カードづくりを行った人や団体も活性化させる効果があることがわかった。



A部会のグループ名

ひらいてむすんで

カード作りで、募集团体内の思いや絡まりをほぐして開いてゆき、その後ターゲットと手を結べるように考えているグループです。



3-1 二次元コードの活用

現在、二次元コードは世の中に当たり前のように広がっている。

二次元コードを使えば、カードに掲載しきれないような情報や団体のホームページに気軽にアクセスできるようになる。

カードに掲載しきれない情報とは??

→ex:活動者のインタビュー動画、活動している動画など実際にどんな人が活動しているのかを知ることによって参加しやすくなる。

二次元コードの作成方法

スマホのアプリやWEBサイトなどで簡単に作成できる。



作成例

様々なタイプの二次元コードが作成可能



さわやか北摂



多田コミュニティ
協議会



動画: 川西市電子
プレミアム付き商品券
(動画サイトにジャンプします)



文字バージョン



カードに二次元コードを入れ込む

友だちをつくりたい

自分の趣味を
発表できる場所

イベントに参加したい

少しでも子どもの手がはなれるといいんだけど...

こんな声かけをしてね

- 好きな時間に来てOK
- 子どもと一緒にきていいよ
- ごはん一緒に食べながらしよう
- できるときにムリなく参加してね
- 得意を活かして大活躍!

4才双子のママ(32才・専業主婦)

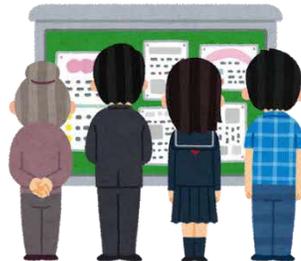
検索は、こちら

3-2 カードの活用方法

・イベントで配布



・掲示板に貼る



・広報誌に掲載



・施設に設置



3-2 カードの活用方法

まずはカードづくりを知ってもらうことから
「活動の継続や人材不足にお困りの団体さん必見」
「こんないい方法がありますよ！」

広報かわにしmilifeや、市のHP、プレスリリースも戦略的に行う。

モデルケースに取材に来てもらう（J-comや、神戸新聞やミニコミ誌など）。

コミ連合の研修会での案内や、川西市市民活動センター、ボラセンからも紹介してもらえるように。

3-3 継続のしかけ

その1

数珠繋ぎ式

カードづくりに取り組んだ団体が、次の団体のお手伝いをする。

その2

複数団体参加型

複数の団体による合同開催で他団体の良さや違いを体感してもらおう。互いにファシリテーションしあいながらカードづくりを進行できるようにする。

3-4 カードの設置場所 公共施設①

市の協力のもと設置

- ・市役所
- ・キセラかわにしプラザ
- ・パレットかわにし
- ・アステ市民プラザ
- ・社会協議会

《募集側》

- ・市内全域から来る人へ伝えられる

《参加側》

- ・公共施設にある安心感

3-4 カードの設置場所 公共施設②

市の協力のもと、団体の近い地域での設置

- ・公民館 川西南、明峰、多田、
緑台、けやき坂、清和台、東谷、北
陵、黒川、大和行政センター
- ・コミュニティーセンター
牧の台会館、多田東会館、満願寺ふ
れあい会館、加茂ふれあい会館)
- ・掲示板
- ・学校(小・中・高校)
- ・各コミュニティー施設
- ・各自治会施設

《募集側》

- ・団体の認知がすでにある
- ・カードの設置、管理、回収が
しやすい

《参加側》

- ・団体への認知がすでにある
安心感
- ・地理的に参加しやすい

3-4 カードの設置場所 公共施設③

市の協力のもと設置

- ・総合体育館、市民体育館
- ・中央図書館



《募集側》

比較的時や、体力などがある人の目につきやすい

- ・市立川西病院



《参加側》

募集団体の存在を知り、助けて欲しい、力を貸して欲しいというセーフティーネットに繋がる可能性

3-4 カードの設置場所 民間施設

市の後援名義などにより、設置させてもらう

- ・近隣スーパー
イオン、西友、関西スーパー、阪急オアシス、イズミヤ、万代、コープ神戸、業務スーパー等
- ・ショッピングモール
アステ、モザイク、キセラタウン
- ・ホームセンター
コーナン、ロイヤルホームセンター
- ・ドラッグストア
- ・スポーツジム
- ・能勢電鉄、阪急バス(駅、バス停、車内)

企業の社会貢献・SDGs、地域貢献

・企業もどう取り組みれば良いかわからない



《民間施設側》

まずは「待ッティングカード」の設置で地域への貢献

内容から地域課題を知り、協力や、ビジネスチャンスへと繋がる可能性

《募集側》

公共施設は訪れる人が限られるが、不特定多数の人の目に触れる

3-4 カードの設置場所 募集対象に合わせた設置

対象者の目につく場所、一番重要

■ 募集团体の活動地域周辺の施設へ設置

水明台の団体なら→西友、緑台公民館、市民体育館、
グリーンハイツ商店街

■ 募集年齢層の生活習慣に合わせた設置

60代を募集→図書館、体育館、スポーツジム

30代を募集→小学校、スーパー

■ 募集内容に添った施設へ設置

里山整備やDIY活動→ホームセンター

3-4 カードの設置場所 募集対象に合わせた設置

■ イベントに合わせた設置

イベント開催時に、「来年のイベントはスタッフとして一緒に活動しませんか？」と直接配布



《 募集側 》

新たなスタッフが参加しやすいよう、事前にイベントの内容・時間の見直しをする。自らをふりかえる機会になり、活動内容、求めている人材像などを見つめ直し、募集のハードルを下げる。色んな人が関わることで、団体の元気に繋がる。

4. 今後のために

「待ツチングカードづくり」を、コミュニティ、市民活動の力を増進する市主催の研修に取り入れてください。

人材不足など運営
に危機感を抱く人
にピッタシカンカン

ワークショップやっ
てみればわかるそ
の効果。あとは自
分たちでできる。

5. 検討メンバーからのメッセージ(コラム集)

この提言書を作成するにあたり、部会のメンバーで計二回、勉強会を行いました。「実在するグループに協力していただき、実際にワークショップをしてみよう！」というもので、私は「NPO 法人さわやか千の里」さんを推薦し、お声がけをすることに。この団体を推薦した理由は、とても素晴らしいことをされていて、賛同者も多いにも関わらず、なかなかボランティアの募集が上手くいかない、ということを知っていたからです。

「ちょうど良い機会」とご快諾いただき、早速事務所に伺って、カードづくりを開始。すると出てくる出てくる、私たち「第三者」の素朴な疑問と、団体の新たな魅力。「え、それってすごく魅力的です!」「えー！これは今までマイナスポイントだと思っていたわ!」なんて話が盛り上がり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

それまで「カードを完成させ、手に取ってもらうこと」が目的だと思っていた私たち。ですが、思わぬところで大きな成果が出るのが分かり、驚きの連続でした。 赤木牧子

「NPO法人さわやか千の里」とのワークショップに参加しました。

さわやかさんのお困りごと「ボランティアが集まらない」を皮切りに話を伺うと...

短所とっていらっしゃる点も、私達には長所と思えたり。

以前試したけど上手くいかなかった。など、歴史や経験があるからこそ固まってしまっているように見えたり。

長年抱えてきた問題を第三者が聞くことで、視点の変化・時代の移り変わりなどを含めて見直し、さわやかさんは問題点の整理が行えたようで、終盤いきいきとされていました。

この時の状況から、部会名「ひらいてむすんで」が思い浮かびました。

新たな担い手が加入するのが目標ですが、その前に活動団体自体の意欲がなくなってしまうような状況です。自画自賛、褒めてもらう、指摘してもらうことで、活動内容を見直す。これがオープンな「ひらいて」状態。

さらに、自団体を肯定し意欲を取り戻す。ここから担い手と「むすんで」に向かえるように思いました。 乾美由紀

カード作りは、構えることなく世間話、雑談からアイデアが生まれます。
気軽に遊び心とゲーム感覚で取り組みましょう。 加門文男

「ひらいてむすんで」

「待ッティングカードづくり」のワークショップに参加した私は、多田コミュニティ協議会の新米会長です。会長に就任して以来、今後のコミュニティ協議会の運営は、何時まで続けられるのか？誰が行うのか？担い手は？等とコミュニティ運営の危機感を抱いていました。この様な時に縁があり、昨年6月から「ひらいてむすんで」グループに参加できることになりました。コミュニティ会長として悩んでいた問題にピッタシカンカンのグループに驚き「ここで悩みが解決できる！」と確信し、グループの一員としてスタートしました。またラッキーにも、私の地元でカードづくりのワークショップを企画していただくことになりました。ワークショップに参加依頼したメンバーは、今年度防災士資格を取得する若手5名で、快く参加していただきました。当日参加いただいた、藤本先生、名木田さん、三善さんのお力添えもあり、5名はワークショップの内容もしっかり理解し、「あっ」という間の90分でした。「待ッティングカード」の名称もこのワークショップからつけられたように記憶します。このワークショップで得られた結果は、イベントを企画する際は、「どのような人材に来てもらうのか？」「イベント毎に『待ッティングカード』を設置し参加者にアピールできる。」等々。その後、ワークショップに参加したメンバーともう一度会議を行ったところ、このカードの活用によって、人材発掘に大きな期待ができる！ことが5名の共通意見でした。コミュニティの活動内容をこのカードを使って知らせよう！知ってもらおう！と迄になりました。何よりも私が悩んでいた今後のコミュニティ運営に対する危機感が若手のメンバーと共有できたことが一番です。ありがとうございました。 鈴木光義

「ワークショップを行ってみて」

私は「さわやか北摂」さんとのワークショップに参加させていただきました。恥ずかしながら、ワークショップを行った「さわやか北摂」さんのことを私自身ほとんど存じ上げておりませんでした。事前準備としてホームページや委員の方からどのような団体様か情報は得ていましたが、始まるまでかなり不安でした。実際にワークショップが始まってみると、話が途切れることなくお互いのことを話し合ったり、時間が足りないくらいでした。時間の配分が課題であると感じました。私のようにほとんど何も知らない第三者的立場の人がその団体を知るきっかけとしても、カード作りワークショップは意義のあるのではないかと思います。 田中真

今回、カード作りのアイデアを具現化し、ワークショップを実行するまで2年間、関わらせていただきました。コミュニティや自治会の方の川西市への溢れんばかりの想いや自分が知らない世界にふれることで個人的にもいろんな「気づき」がありました。多田コミュニティの防災士会の方といっしょにテーブルを囲んでワークショップを行って「このカードいいね」「カードの続きをぜひ作ってみたい」「こんなイベントもしてみたい」などいろんなお声やお褒めの言葉をいただけたことが、よかったです。ありがとうございました。

名木田 絢子

自分自身もふだん地域活動をしている中でとても気になっている「どうしたら もっと人を巻き込んでいけるのか」ということを、ワークショップの中でどこの団体さんも課題として持っておられることがはっきり感じられ、課題にむかって一緒に考えていくことができとても心強く感じました。

「カードづくりが人を巻き込んでいくのに本当に効果的なんだろうか」と自信が 持てない部分がありましたが、ワークショップをする中で「自分たちだけでは見えないことが第三者の目線からは見えることがある」「課題に対してなかなかしっかり話し合う場がなくワークショップそのものが意識共有の場になる」ということを体感し効果を感じることができました。委員になることがなければほかの団体さんのお話を聞くこともなかったと思いますが、いろいろな団体の方のお話が聞けたことは役得であったなあと感じています。 三善知子

たいへん有意義な部会でした。その要因は、いろいろあります。部会メンバーの年代や経験内容が多彩、市民活動に対する姿勢が前向きで苦勞を知っている、さまざまな考えを認めようとする真摯な姿勢などです。このような方々が集まると、それぞれの発言を大切にしながら、メンバーやワークショップからえた気づきにそって柔軟な議論や対応ができます。その成果が今回のまとめのパワポとなりました。市民活動に取り組む当事者として、どう感じるか、初めて聞いた人がどう思うかなどを考えながらの作業でした。

最も大きな感動は、このような部会のメンバーが、すでに活動をしているグループのところに「待ッティングカード」づくりに出かけると、「その活動がすばらしい」「そうだったんですか。勉強になります」「このワークショップでいろいろなことに気づけました」などの意見交換が行われ、互いに学び、元気になれました。実は、いずれのワークショップも時間がなくて、カードを完成するところまではいかなかったのですが、十分有意義だったのです。このような部会メンバーの素養は、支援の現場にとっても大切であるということ、待ッティングカード」づくりの手法とともに提案したいと思います。 藤本真里

A 現状と課題

1. 現状

新しい人が関わる余地がない 情報がない

- ・ 普通に生活していると何処でどんな活動をしているのかの情報も入ってこない。

新しい人の意見受け入れがたい

- ・ コミュニティの行事が多すぎて決まったことを決まった流れでやらないと間に合わない。

関わるデメリットが大きいというイメージ

- ・ 地域には色々な得意分野を持っている方がいるが、下手に表に出すと何かやらされると思い、活かせていないかもしれない。

無理強いできない

活動をする照れ臭さ 部外者感

- ・ ボランティア活動をしていると、「偉いね」と声をかけられるが、「ありがとう」と違って、部外者感を感じてしまう。

振り返りが不十分で新しい意見反映されない

変えていく風土がコミュニティにはない

- ・ イベントの準備の段階で内容ややり方の変更を検討せず、忙しくて振り返りや反省会も出来ないのも、新しい意見が反映されない。
- ・ コミュニティの予算は前例踏襲だから、イベントを続けられても大きなことはできていない。コミュニティ内の部会ごとに予算のウェイトのかけ方を変えられない。

2. 課題

「ちょっと試しにやってみる」という活動のきっかけが必要

- ・ やる気があってもきっかけや情報がないと始まらない。
- ・ 明確な目的や限られた内容をキーワードに関わってもらえる仕掛け、知らず

知らずのうちに関りを持ってもらう。中には、そういった仕掛けに乗りたいと思っている方もいる。

組織に風穴 続けやすく入りやすい組織へ

- ・ いつもの内容で続けることが無難だが、それでは組織は変わらない。
- ・ 組織が特別な遠い存在であると感じさせている、コミュニティ組織の在り方にも問題はあある。

活動の基盤づくり

- ・ PTA の中心を幼稚園のママ友が担うなど、一定のグループの基盤があると次の活動の取っ掛かりになる。

若い世代を巻き込む

- ・ 学生などに向けて、コミュニティの存在を知ってもらう取り組みが必要である。
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんと離れて暮らす子は多いので、地域の年配の方との交流(昔遊びなど)は有効だ。
- ・ 子どもから親世代の交流につながり、そこで自身の課題や悩みの解決につながれば、引っ掛かってうれしい仕掛けだと思う。
- ・ 子どもが小学校を卒業するまでが、コミュニティとの距離が一番近い。そのため、高校生や大学生に興味を持ってもらったり引き込んだりしていくことが大切。
- ・ 中学生以上になると部活単位で声をかければ、顧問の引率等の調整がつけば、地域への関わりが作れる。
- ・ 福井県鯖江市の JK 課も高校生と市の課題を結び付けるいい取り組み
- ・ 高校も地域に近付いてきている。地域学習や部活動の発表等で地域との関わりが生まれてきている。

家族の協力や理解

B 解決策

1. 組織や運用方法を改革

(1) 組織の改革

新しい組織に入れ替え

- ・ 新たな担い手を受け止め、育てる組織を作る。既存の組織から代替わりする際に、新しい組織に入れ替える。

(2) 会議の進め方

新たな意見や関係を受け入れる風土

- ・ そこで出てきた意見を取り入れ、生まれた関係を育てる。会議を欠席してもよい、趣味の話や世間話も出来るような風土。その考えを受け入れる側(年長者)が持てるかどうか。
- ・ 行事の参加者の声を拾いそれを実現

共通のテーマだと盛り上がる

- ・ 子育て等の共通のテーマだと盛り上がるし、交流も深まる。

(3) 活動の進め方

役員や運営を固定しない

- ・ 単発でお金を集め、用品を持ち寄る活動がいいのではないか。

コミュニティ組織にその解決を求めるならば、まずは地道に小さなところから活動することが大切

お金や知識をサポートして、若者に全て任す

コミュニティで新しい課題にチャレンジ

男性にははっきりとした役割や目的

- ・ スポーツのコーチなど、男性が関わりを持つキーワードが入り口となって地域活動に参加。

反省会は飲み会で

コミュニティの作業を仕事化

(4) 広報

自治会やコミュニティは、自分達を丁寧に発信

- ・ 自治会やコミュニティは、自分達を発信することを疎かにしがちだ。行事の際に、主催者情報(団体概要や目的、求めている人材など)を示してはどうか。
- ・ コミュニティの年間行事が決まっているなら、関わっていない人にもオープンにすれば、実はそこまで大変でないと感じるのでは。

2. 公共からの支援方法

地域に活動希望者と受け入れ側のコーディネーターを

公共で起業支援

- ・ 若い世代で営利事業をやりたい人は多い。空き家を活用しているが、公共施設や地域の施設を活用できればいい。

3. 部会からの提案方法

読み物ではなく漫画で提案

- ・ 明石には、[このガイドブック](#)がある。とても参考になるが、多くの人知らない。今回の報告書も読み物ではなく、漫画や子どもが読んで親に話せるようなくらいのもがいい。

C 模擬ワークショップからわかったこと

模擬ワークショップにおける自治会の課題、想定した人の行動・意識などについての議論内容や部会メンバーの感想を紹介する。

実施日 20200821(金)(zoom)

〇〇自治会 担い手募集のためのトラップワークショップ(模擬)

1. ワークショップの想定内容

自治会の概要

- ・ 自治会加入世帯:1750 世帯
- ・ 自治会員:772 名
- ・ 自治会は、隣保で 10 から 20 軒くらいずつに分かれている。
- ・ 隣保長のところに回覧板が発着
- ・ いくつかの隣保で班を構成、班長が役員会に出席

自治会における課題

- ・ 自治会離れ
- ・ 高齢の役員
- ・ 災害対策
- ・ 自治会の役割大きい
- ・ 人材確保
- ・ 人材育成

カードの表面

やる気があり積極的だが取り組めていないという、ある人の具体的なイメージ、その人の疑問・悩み

(属性)

- ・ 男性
- ・ 年代 40 代
- ・ 大阪に勤務 現役
- ・ 子どもは中学になって、育て落ち着いてきた
- ・ なんでも妻に任せてしまっている

(特徴)

- ・ 防災には興味ある
- ・ 避難訓練するべきだと思う
- ・ 非常食が食べてみたい
- ・ 消火器の操作をしたことがない
- ・ もしものとき、どこに避難したらいいのかわからない
- ・ 地域に知り合いがいらないから、災害時に助けてもらえるのが不安

カードの裏面

- ・ 表面に想定された人の疑問・悩みに対応できるような活動の具体的な内容・条件(有償か無償かなど)
- ・ 非常食が食べられる(ドライカレー、羊羹など)
- ・ 炊き出しに豚汁もでる
- ・ 避難場所でキャンプできる(子供が喜ぶかも)
- ・ 消火器の使い方を教えてもらえる
- ・ 家族で、土日の短時間で参加できる
- ・ 家族の絆が深まる
- ・ 父親の偉大さをみせることができる
- ・ 自治会加入率は40%で、その人たちと繋がることができる
- ・ 趣味友が増えるような自己紹介ができる場(同世代が集まる場所)

2. ワークショップのやり方について

ワークショップに必要な

- ・ 説明には、カードの見本やテンプレート、説明書などの資料を配った方がよい。
- ・ ワークショップ用に簡単なトラップカードの説明書のようなものを作成すると良い。
- ・ 多世代が理解できるように、なるべく横文字(テンプレート・ペルソナ....etc)を使わない方が良い。

事前打ち合わせが重要

- ・ 自治会などの対象とした人々と、カードづくりをどんなメンバーを集めてやるか、どういう人を勧誘したいのかなど、事前に共有すべきことが多いことがわかった。事前打ち合わせが重要。

第3者の参画で議論が盛り上がる

- ・ 初動期、カードづくりのグループにトラップの会の人がいって盛り上げる。
- ・ 対象組織の課題などをきいて、素直に疑問をなげかけることができたのがよかった。トラップの会のように第3者的な存在が重要である。

対象組織の幹部出席は不可欠

- ・ 対象とする組織の問題点、データがわかっている幹部の出席は不可欠である。

3. カードづくりで団体等の振り返り

大きな収穫

- ・ カード作成を通して団体やイベントの問題点・改善点が出てくるというのが大きな収穫。
- ・ カードづくりによって、自治会側(作り手側)の振り返りの要素が強い。

改善のヒントが

- ・ 想定された 40 代の男性が何を楽しいと思うのかを聞いて、避難訓練のあり方を変えるヒントになった。マンネリ化を回避できる。

幹部だけではこんな話にならなかった

- ・ 自治会の幹部だけでは、こういう話にはならなかった。ワークショップにどういう人を集めるか重要であることがわかる。
- ・ 自治会では、70 代以上が中心で、40 代、50 代の思いをあまり考えることができていない。今回、一緒に考えることになったことがよかった。

4. 幹部の本音、若者の本音

幹部の本音を幹部以外が聞けたら

- ・ 今回、幹部の「土日のちょっとした時間だけでも参加してもらえるとありがたいなあ」というような本音を聞くことができてよかった。若い世代は、必要と思われていると感じていない。
- ・ 自治会幹部は、現役世代にあまり負担はかけられないと考えている。

若い世代は求められていると知らない

- ・ 30 代の若い世代は、自分たちが必要とされているとどれだけ感じるができるかが重要。
- ・ 「餅つきに来てよ！」といった具合に、単刀直入に誘われると、行きやすい。若い世代は、自治会で求められているのが自分のことだとは思っていない。

若い世代には具体的なお得感

- ・ 若い世代は、トラップカードにはできるだけ具体的な内容を求めている。参加すれば自分にどんな得があるか。
- ・ ワークショップの時には、幹部の人たちから参加した時の「お得感」を聞き出すのも良い方法だ。

5. ワークショップの前に

自治会の活動パターンを変化させないと

- ・ 想定した 40 代男性は、普段自治会でバリバリ活動している人ではない。今の自治会には、そういうタイプの人を受け入れられる部分が少ないので、興味を持ってもらえるようにするにはどうしたらいいのかを考えることは難しい。自治会側が求めるのは従来の活動をそのまま担ってくれる若い人だろう。活動パターンを変化させていかなければ新しいジャンルの人を求めにくい。

6. ワークショップの意義とこれから

どんな人が参加しても意義があるワークショップ

- ・ ワークショップを行う時に誰を呼ぶかという議論になったが、どのような人が参加しても結果的には意義のあるワークショップになるのではないか。
- ・ なるべく若い世代に参加してもらいたいが、こちら側から幹部の方に集める人数などを指定するとワークショップ開催自体にハードルが上がってしまう。
- ・ ワークショップに 30 代や若年層を集めるのは難しい。
- ・ 団体やイベントの改善点が出てきて、質が上がればきっと参加率等も上がってくるのではないか。

トラップのループ

- ・ ワークショップで作成したカードを見て参加してくれた人達を巻き込んで、さらにカードを作成してカードの質自体を上げていくというトラップのループが可能なのでは無いかな。

今まで自分の周りになかった価値観に出会えることを伝えたい

- ・ 自治会活動や行事に参加すると、新しい人間関係や今まで自分の周りになかった価値観に出会えると思うので、そのあたりをわかりやすく魅力的に伝えられたらよい。

7. ズームの会議は難しい

- ・ 慣れが必要だと痛感。準備不足でギリギリに入ったこともあり、音声のことなど不安要素があつての参加になってしまった。
- ・ どのタイミングで誰が喋るのか？と探り合っている感じでなかなか対面しているときのように喋れない。自信のない意見など特に喋りづらい。場慣れしている人は大丈夫ですするには工夫がいる。

8. 第3者的存在 トラップの会の特徴

- ・ まちづくりの新たな担い手が増えれば良いと願っている
- ・ 多様な属性
- ・ 多様な活動遍歴
- ・ 違う立場の思いを理解しようとしている
- ・ 市役所が努力していること、足りないりないところを知っている
- ・ まちづくり活動に関わっている人が多い
- ・ まちづくり活動が楽しいこと、苦労が多いことなどを知っている 対象と共有できる
- ・ 対象となる自治会等のグループとフラットな立場で議論できる

D 今後のために

市役所との協働関係

- ・ 川西市とカードづくりをお手伝いする団体が協働関係にあれば、信頼され、地元にはいりやすい。
- ・ カードづくりには、市の後援名義を取ることができるようにすれば良いのではないかと。企業への協力依頼もしやすい。参加特典ともいえる。
- ・ 民間の施設に掲示するなど、市民グループ単独では難しい。お手伝いする団体(市の後ろ盾あり)で掲示することも可能。

コミュニティの研修として

- ・ 市民グループが研修を担うという状況は、市にとっても大きなプラスではないか。
- ・ 市が主催するコミュニティが集まる会合に、私たちが行ってワークショップをやるのはどうか。研修として盛り込んでほしい。
- ・ 市長や市の職員も体験してほしい。良さをわかってもらえる。
- ・ このワークショップは、自らをふりかえる機会になる。活動内容、求めている人材像などを見つめ直し、募集のハードルをさげることになって、元気が出る。

(R1 ~ R2 年度) A 部会 会議録一覽

会議録一覧

令和元年度第1回A部会（R1.7.25）	2
令和元年度第2回A部会（R1.8.19）	7
令和元年度第3回A部会（R1.10.24）	12
令和元年度第4回A部会（R1.11.19）	17
令和元年度第5回A部会（R2.1.20）	21
令和元年度第6回A部会（R2.2.17）	28
令和2年度第1回A部会（R2.7.9）	33
令和2年度第2回A部会（R2.8.21）	36
令和2年度第3回A部会（R2.10.29）	41
令和2年度第4回A部会（R2.11.30）	45
ワークショップ『さわやか北摂（千の里）』（R2.11.23）	51
ワークショップ『多田コミュニティ（防災士）』（R2.11.28）	55
令和2年度第5回A部会 事務局案（提言書用）（R3.1.22）	60
令和2年度第6回A部会 事務局案（提言書用）（R3.2.12）	66

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第1回A部会 (R1.7.25)		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和元年7月25日(木) 午後6時00分から午後7時30分		
開催場所	川西市役所 地下1階 B01 会議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、加門文男、乾美由紀、久保圭志、田中真、西村牧子、三善知子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 課長、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="margin-left: 40px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 40px;">2 議 事</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) 今後の進め方等について</p> <p style="margin-left: 40px;">(2) A部会のテーマ</p> <p style="margin-left: 80px;">(仮)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="margin-left: 40px;">3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局にて進行。

2 議 事

(1) 部会の進め方について

○事務局

改めて推進会議・部会を設けることの目的や趣旨について説明。

具体的な提言を行う材料とする。

最終的には、一定のガイドライン・報告書に類するものを作成。どのようにすればより多くの人に活動に関わってもらえるかについて、コミュニティ組織・自治会・NPO・ボランティアなど様々な主体に対して、提言を行う。

市の施策に反映する。

市民公益活動に関する効果的な広報や情報発信などを行う際に、ターゲット設定や発信内容などを考える際の材料とする。

(進め方)

- ・ 進行は部会長を中心として、各部会にお任せする。
- ・ 部会名称も決めていただきたい。
- ・ 本日含めて、6回の部会で、自由に話し合ってください。
- ・ 全体会で各部会の内容を共有する。

(2) A 部会のテーマ

(仮)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

○藤本部会長

第7回(12月)が意見発表のため、第6回までの4回の部会で大体まとめていく。

また、提言は文字でまとめたただけのものではなく、見せ方・伝え方の議論もみなさんとしていきたい。

進め方は、まず、「やる気はあるが取り組めていない人」の現状、その人の気持ち、まわりの環境を整理する。次に、その課題に対する解決策を探っていくという流れである。

本日は現状・課題について議論し、その中で、部会名も決めていければと考える。

(各委員から出た意見)

- ・ イベントの準備など、運営側の慣れた人が全部やってしまうと、新しい人が関わる余地がない。今の組織に風穴を開けることが必要だ。
 - ・ 仕事をしていると勤務地のことは知っていても地元のことはよく知らないし、普通に生活していると何処でどんな活動をしているのかの情報も入ってこない。
 - ・ 気軽な気持ちで参加してしまうと、この先運営に関わらないといけないというイメージがある。「ちょっと試しにやってみる」を許してくれる雰囲気が必要。
 - ・ 活動のきっかけが重要だ。やる気があってもきっかけや情報がないと始まらない。
 - ・ ボランティアなどの活動には、家族の協力や理解が大切である。家族の理解があっても、活動で家を空けてしまう罪悪感はある。
 - ・ 地域活動やボランティア活動を照れ臭く感じたり、他人から偽善とみられてしまうと感じる人もいる。
 - ・ 新しい人がその地域や団体を知り、運営側として参加するには猶予が必要だ。
 - ・ 子育て等の共通の悩みや問題に直面している人同士は、一緒に集まって色々話してみると盛り上がるし、交流も深まる。(何か得られるお得感のようなものがあれば、さらに良い。)
- そうするうちに手伝ってくれる方も出てくるが、その人にも仕事や自身の生活があるので、無理強いはいできない。
- ・ メリットしかない参加者側から運営側に回るとデメリットが大きく見えてくる。
 - ・ 役員や運営を固定しない、単発でお金を集め、用品を持ち寄る活動がいいのではないかな。

- ・ 保護者会など活動によっては、良好な関係が築けている以上に大きな活動となる必要はない。
- ・ PTA の中心を幼稚園のママ友が担うなど、一定のグループの基盤があると次の活動の取っ掛かりになる。だが、この基盤が作れなくて、多くの組織が後継者問題に苦労している。
- ・ 地域活動は、自分という存在の居場所づくりがスタートであった。そこから人とのつながりやコミュニティの活動が広がってきた。
- ・ ボランティア活動をしていると、「偉いね」と声をかけられるが、「ありがとう」と違って、部外者感を感じてしまう。
 また、組織が特別な遠い存在であると感じさせている、コミュニティ組織の在り方にも問題はある。入りやすい、続けやすい、特別な組織ではないと感じてもらえる必要がある。
- ・ 少しずつの負担を求めないきっかけが大切である。
- ・ いつもどおりの内容で続けることが無難で楽だが、それでは組織は変わらないし、新しい人も参加してこない。
- ・ これまで運営してきた人の積み上げてきたことに対して、急に新しい人が意見しても受け入れ難いという気持ちも理解できる。
- ・ 男性は、役割や目的がはっきりしている方が参加してくれる。スポーツのコーチなど、男性が関わりを持つキーワードが入り口となって地域活動に参加してくれるケースもある。
- ・ 地域には色々な得意分野を持っている方がいるが、下手に表に出すと何かやらされると思い、活かせていないかもしれない。
- ・ 明確な目的や限られた内容をキーワードに関わってもらえる仕掛け、知らず知らずのうちに関りを持ってもらうのがいいのではないか。中には、そういった仕掛けに乗りたいと思っている方もいる。
- ・ 仕掛けの作り方と新しい人を受け止める組織がポイントではないだろうか。

- ・ 新たな担い手を受け止め、育てる組織を作るやり方もある。既存の組織から代替わりする際に、新しい組織に入れ替えることもできる。
また、既存の組織、新しい組織、それぞれが力を発揮できる場があるので、互いに上手く付き合っていくことも大切である。
- ・ イベントの準備の段階で内容ややり方の変更を検討せず、忙しくて振り返りや反省会も出来ないのも、新しい意見が反映されない。
- ・ 運営側も終わってまで手伝ってくれた方を拘束したくないし、誰が良くなかった、ここが悪かったという話をしたくないのではないかな。
- ・ 反省会も会議形式ではなく、飲み会のように雑談ができる場でこそ、フランクな意見が出てくる。

3 閉 会

事務局にて進行。

○事務局

次回の部会は、8月19日(月)午後6時から、市役所7階大会議室にて実施予定。

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第2回A部会 (R1.8.19)		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和元年8月19日(月) 午後6時00分から午後7時40分		
開催場所	川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、加門文男、乾美由紀、久保圭志、田中真、名木田絢子、西村牧子、三善知子	
	その他		
	事務局	総合政策部 副部長 総合政策部参画協働課 課長、 同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="margin-left: 40px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 40px;">2 議 事</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) A部会のテーマ</p> <p style="margin-left: 80px;">「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが 取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="margin-left: 40px;">3 閉 会</p>		

1 開 会

1回目の振り返り

○藤本部長

前は、やる気があるが取り組めていない人の気持ちや周囲の環境について議論した。

(出た意見については、第1回の会議録を参照)

今回は、課題に対する解決策について、組織に関わってもらう仕掛けについて、話していきたい。

2 議 事

(1)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

(各委員の意見)

- ・ 仕掛けを作る際に、地域団体や NPO など組織ごとや世代別に考えてはどうか。
- ・ 事業の主催が知られておらず、参加者に事業を提供しているだけでは、運営はしんどいと思う。主催側が自分達の存在や連絡先を丁寧に発信していると、活動もうまくいっているように思う。
- ・ 自治会やコミュニティは、毎年同じことを繰り返す中で、自分達を発信することを疎かにしがちだ。行事の際に、主催者情報(団体概要や目的、求めている人材など)を示してはどうか。
- ・ 明石には、 というガイドブックがある。どの地域でも話し合われていて、形になっているのに多くの人知らない、読んでいない。今回の報告書も読み物ではなく、漫画や子どもが読んで親に話せるようなくらいのものがいいのでは。
- ・ コミュニティや地域の行事では、昔のやり方や流れが固定化してしまっている。
- ・ やるのもやめるのも自由、出来ることを出来るときにする、若い世代の意見の言える環境でイベントを出来た際は、企画から参加すると大変だが、やりがいは大きい。
- ・ お金や知識をサポートして、若者に全部任せてしまうイベントがあってもいいのでは。

- ・ コミュニティの行事はいつまでに何をするかは全部決まっている。行事が多すぎて決まったことを決まった流れでやらないと間に合わないので、変化を受け入れられない。
- ・ フリーで気軽に参加できる組織を作る。そこで出てきた意見を取り入れ、そこで生まれた関係を育てていくことが大切だ。会議を欠席してもよい、趣味の話や世間話も出来るような風土。その考えを受け入れる側(年長者)が持てるかどうかにかかっている。
- ・ 行事の参加者の声を拾いそれを実現することで、柔軟性をアピールするのはどうか。
- ・ 社会福祉協議会のボランティア活動は、希望者と受け入れ側のコーディネートが機能しているようだが、地域はそういったコーディネートが上手く機能していない。そういった情報を入手できていない。
- ・ コミュニティの年間行事が決まっているなら、関わっていない人にもオープンにすれば、実はそこまで大変でないと感じるのでは。
- ・ 地域一括交付金で補助金は乱立していないが、コミュニティ組織が同じなので、事業の整理は進んでいない。コミュニティの予算は前例踏襲だから、イベントを続けられても大きなことはできていない。コミュニティ内の部会ごとに予算のウェイトのかけ方を変えられない。
- ・ 選択肢の多い制度だが、組織を動かしていく体力、変えていく風土がコミュニティにはないと思う。14あるいずれのコミュニティは、同じようなことしかできていない。核となるイベントは据え置いて、それ以外に新しいことをやっていかないといけない。
- ・ 地域別計画はあるが、お題目だけで血の通った計画ではないと思う。コミュニティのメンバーでも存在を知らないし、理解できていない。
- ・ コミュニティの中で新しい課題にチャレンジする事業を提案できればいいと思う。こういったことも一つの仕掛けである。
- ・ 若い世代で営利事業をやりたい人は多くいる。しかし、場所がないので、空き家を活用しているが、公共施設や地域の施設を活用できればいいと思う。
- ・ パレット川西は女性の企業を応援しているが、起業されると営利目的となるので使用できない。

- ・ コミュニティ活動の地道に大変なことを仕事にしてはどうだろうか。
- ・ 有償ボランティアという考え方はあるが、地域づくり一括交付金の観点からも運営側が報酬として金銭をもらうことには、抵抗がある。一方、若い世代にはその抵抗がないようで、ギャップがある。お金が入ると揉め事のもとにもなるが、労働への何らかの対価は必要である。
- ・ その地域の方が仕事としてよるのがややこしいなら、起業や委託にしてはどうか。
- ・ 生活のために仕事をしていると地域活動への参加は難しい。地域の方に支えられているのはわかっているので将来返そうと思っているが、中にはその活動を当たり前と捉えている人もいる。
- ・ 学生などに向けて、コミュニティの存在を知ってもらう取り組みが必要である。
- ・ 子どもを切っ掛けに仕掛けをつくることは有効だと思う。おじいちゃん、おばあちゃんと離れて暮らす子は多いので、地域の年配の方との交流(昔遊びなど)は有効だ。
- ・ 子どもから親世代の交流につながり、そこで自身の課題や悩みの解決につながれば、引っ掛かってうれしい仕掛けだと思う。
- ・ コミュニティ組織にその解決を求めるならば、まずは地道に小さなところから活動することが大切である。その活動が育ってきたときに受け入れることができる組織であることも重要である。そうでないと新しい活動や人は育ってこない。ただし、組織がお金や人手をかけて活動する際には会議や組織へのフィードバックが必要になる。
- ・ 子どもが小学校を卒業するまでが、コミュニティとの距離が一番近いと思う。そのため、高校生や大学生に興味を持ってもらったり引き込んだりしていくことが大切だと思う。子どもが大きくなり、親も仕事に出ていけるようになると一層地域との距離が遠くなる。親も子ども地域に目が向かなくなってくる。
- ・ 中学生以上になると部活単位で声をかければ、顧問の引率等の調整がつけば、地域への関わりが作れる。
- ・ 福井県鯖江市の JK 課も高校生と市の課題を結び付けるいい取り組みだと思う。
- ・ 高校も地域に近付いてきている。地域学習や部活動の発表等で地域との関わりが生ま

れてきている。

(次回以降について)

○事務局

次回の部会は、9月24日(火)午後6時から、市役所4階庁議室にて実施予定。

中間発表の全体会なので、発表のやり方を決めていただきたい。各部会の持ち時間は、30分程度を予定。また、10月以降の部会の日程も決めていただきたい。

○委員の決定内容

中間発表は、藤本部会長が中心に概要を発表し、久保委員と西村委員が補足を行う。

また、今後の部会は、10月24日(木)と11月19(火)、時間はいずれも18時から行う。

3 閉 会

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第 3 回 A 部会 (R1.10.24)		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和元年 10 月 24 日(木) 午後 6 時 00 分から午後 8 時 00 分		
開催場所	川西市役所 7 階 大会議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、加門文男、田中真、名木田絢子、西村牧子、三善知子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 課長補佐、同課主任 1 名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="margin-left: 40px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 40px;">2 議 事</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) A 部会のテーマ</p> <p style="margin-left: 80px;">「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="margin-left: 40px;">3 閉 会</p>		

1 開 会

○藤本部長

誰に対してどんな提案をしていくのか、今回と次回でまとめ、12月の全体会を経て、その後の2回で、見せ方・伝え方の部分を議論したい。

提案内容は、網羅的である必要はなく、ターゲットを絞った提案を議論したい。また、以前ガイドブックがあってもあまり読まれていない事例があったが、それは書き手が読み手と同じ立場に立って一緒に取組もう、汗をかこうと読み取れないからだと思う。

前回の全体会で発表した解決策の内容をまとめた資料を作成しているので、皆さんと確認したい。

< 資料を全員で確認 >

2 議 事

(1)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

(各委員の意見)

- ・ 土日しか休みのない主人に、「どのような活動ならば参加するか」聞いたところ、「自分の子どもと一緒に参加して、子どもが喜んでくれる活動」と答えた。
- ・ ターゲットは、自治会・コミュニティなど地域活動に絞るのか、イベント活動など市民活動に絞っていくのかによって、提案内容は違ってくる。
- ・ 市民活動センターの登録グループでも横のつながりができていない。コミュニティでも横のつながりがいいのではないかと。
- ・ 地域での事業は関わる人間が固定化されており、特に自治会は硬い。そこには横のつながりがいいので、つないでいくためには広報活動をしっかりしないと行けない。ネットやSNSの活用のためには、若い方に広報をやっていただきたい。
- ・ 農村部のまちづくりにおいては、現在の祭りや事業に固執して、将来の子ども・孫の代のまちづくりを考えられていないところもある。次の担い手である、40・50代の方に将来のま

ちづくりを考えてもらえる機運が必要である。

- ・ コミュニティとは別に川西を良くしようとする方は、ポツポツいる。大和地区には、お母さん世代が集まって「DAIWA Rks」というグループをつくり、大和地区を盛り上げようと活動している。ただし、コミュニティと連携はできていない。コミュニティの会議等に都合が合わない。今は、空き家を活用したニコカフェを利用して活動している。
- ・ 参加を募る際に「何時から」より「何時まで」を示すことが大切だ。また、駐車場が用意されているなども、特に男性にとっては重要な情報である。
- ・ コミュニティ活動は年間予定がきっちり決まっていて、気軽には取り組めない。それでも自分と異なるペースや考えの方に最初戸惑っても、その中で認められるとやりがいにつながる。
- ・ コミュニティや自治会は、一度事業の棚卸が必要だと思う。今はやめることができなくなっている。役員が集まらない、会議もままならない活動であれば、一度やましてしまうのも一つの考えだ。しかし、それができずにみんな苦労している。
- ・ 自治会に入っていないと「あそこの家は自治会に入っていない」と言われたり、不登校の子どもがいるのにPTAの役員をさせられたり、自治会に入っていないからゴミを捨てさせてもらえないから困っている人もいる。
- ・ 自治会は生活密着型だ。いざ災害等が起これば、自治会や近隣とのつながりが必要と実感できるが、今は個人の生活の安心・安全があるから自治会が求められなくなっている。しかし、自治会がしっかり機能しないと地域はよくなるらない。
- ・ 自治会に入っていないなくても普段から仲良くしているご近所さんはいる。自治会がないと災害時に困るだけでなく、日々の治安が悪化すると思う。
- ・ ただ、自治会はよろず相談所じゃない、お隣同士のトラブルは個人対個人の問題で解決すべきだ。
- ・ 人と人のつながりの切っ掛けは、何らかの共通点。それは飲み仲間でも子育て仲間でもいい、そのつながりを大切にして活動に結び付けられればいいと思う。
- ・ 今まで活動している人は、新たな人が入ってくるとこれまでの自分のテリトリーを侵される

と考え、反発してしまう。

- ・ 子どもが参加するイベントは、子どものステージなどを会場の一番奥にして、そこまでの経路に物販など親御さんに立ち寄ってもらう仕掛けをしている。ハロウィンイベントを行う際は民間事業者も巻き込んで企画している。事業者との交渉はしっかりした本部がやってくれる。スタッフは自由に活動させてもらえるし、自分の子どもが店長を出来たりイベントへの優先参加ができるメリットもある。こんなやり方で地域の行事を合わせることができればいいと思う。
- ・ コミュニティと自治会の関係も様々である。ただ、自治会が大きい地域はコミュニティの活動が控えめになるし、自治会が大きい地域もコミュニティ活動が盛んになると自治会の意義が問われてしまうので、上手くバランスをとって活動している。
- ・ 若い人が地域の年配の方に話すときに、他の地区の方に仲裁に入ってほしい。同じ地域の中だけだと、年配の方からは「自分たちはこうやってきた」と言われてしまう。
- ・ 自治会長が変わった時に引き継ぎがなくて、とても大変そう。次の世代につなぐ情報が大切だ。
- ・ やる気のある若い方を発掘して支援できる体制・組織を作らないといけない。特に、若い方に任せられる何かを見つけて、年配のものが任せていかかないといけない。
- ・ やる気のある年配の方は、福祉の関係で横のつながりは自然とできてくる、若い方を子ども中心としたイベントなどを切っ掛けに声掛けをして掴んでいかないといけない。
- ・ せっかく手伝いに来てくれた若い方にちゃんと参加してもらえるように行事のマニュアル化、チェックリストの作成が必要だと思う。若い方が何をやっていいのかわからずに、気だけ遣って帰ってしまうことが一番残念だ。
- ・ そもそもイベントや行事に参加するきっかけは、情報である。SNSは若い人に対してとても効果的である。
- ・ 地域のイベントなどの情報を、まずSNSで見えて知る、次に現場に行って知る、その2点がないと人の接点がない。
- ・ 地域の方を対象にSNS教室を行ったり、地域の情報を拡散してくれた方にプレゼントをす

るなど、情報発信・伝え方の工夫が必要だ。

- ・ 人を募る際は何をどのように手伝ってほしいのか細かく伝えて募集することが大拙だ。
- ・ 情報を見た方が、理解できる・行きたいと思えるくらいにハードルを下げる。
- ・ 大阪の市民参加研究会が作成した「豊かな社会を実現する市民参加のすすめ方」という本によれば、ボランティア等の活動への参加のタイミングは、ライフステージの変わり目やお誘いがあった時だそうだ。
- ・ 重要なのは、お誘いの質、仕方、タイミング、誰が誘うのかだと思う。そのうえで、参加してくれた人に明確な役割を与えることだ。折角来てくれて何も役割がない、主体的に関わってもらえないのはダメだと思う。参加した方が、終わった後にどういう活動ができたのかを話せることが参加した実感にもつながる。
- ・ 情報発信の媒体は様々で、媒体によって届く相手も様々である。SNSも紙媒体のチラシや広報も両方やらないと効果は低い。
- ・ 自治会も元々は、日々の生活をよくするために主体性を持ってみんなで協力して活動していたと思う。長く活動しているうちに、人から仕事のような思われ、感謝もされなくなり、やっていて当たり前のように思われてくる。
- ・ 自治会長は地域の裏方になりがちで、その頑張りに目が向けられることは少ない、子どもの登下校の見守りも勝手にやっていると思っている人もいる。このような頑張りを知ってもらうことも大切、知らない人ほど苦情を言う。
- ・ どういった情報をどう発信するかは、行政やコミュニティ組織の場合公平性の問題がある。第三者が発信するのがいいと思う。

3 閉会

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第4回A部会(R1.11.19)		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和元年11月19日(火) 午後6時00分から午後8時20分		
開催場所	川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、加門文男、田中真、名木田絢子、西村牧子、三善知子、久保圭志	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 課長、課長補佐、同課主任1名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="margin-left: 40px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 40px;">2 議 事</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) A部会のテーマ</p> <p style="margin-left: 80px;">「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが 取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="margin-left: 40px;">3 閉 会</p>		

1 開 会

○事務局

当初、12月全体会で一定のアウトラインを作成し、1～2月で見せ方の検討、3月報告書作成予定としていた。両部会の議論内容、委員からの提案などをふまえて、3月に一定のアウトラインを作成し、4～5月で見せ方の検討、6月に報告書完成とすることも可能である。

2 議 事

(1)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

(各委員の意見)

- ・ 着地点はマニュアルを作るのではなく、何らかのアクションにつながるものとする。部会の提案を受けて、市民・行政それぞれの活動が、相乗効果となるような仕掛けが作れないか。
- ・ ここでの議論を委員が自身の団体に持ち帰って、取り組むことも大切だ。
- ・ 既に川西を盛り上げる団体が点在していて、イベントが集中する時期には集客が分散してしまっている。
- ・ ちょっとでも参加してくれる人は貴重、その人の記憶や思い出に残る体験であれば、活動の切っ掛けになる。
- ・ 参加者は一緒にやりづらい人がいないかなど人間関係が気になる、人を募る側は、その点にいかにか根気強く向き合えるかだと思う。
- ・ 参加する人が、最初のハードルを越えるための、ポンと背中を押してくれるようなアドバイス集がいいのではないかな。
- ・ 何かを始めたいという人が気軽に相談できる窓口、マッチングしてくれる窓口がわかる情報があれば。
- ・ 年配の方は、初めての電話など最初の問い合わせのハードルを越えられるイメージがある。若者は電話が苦手、メールやLINEに慣れているイメージだ。

- ・ 参加する方が手間をかけて問い合わせたり、声をかけたりすることを期待してはダメ。募る側が情報を送ったり誘ったりすることが大切だ。
- ・ 「いつもお世話になっています」など丁寧すぎるあいさつも、若い方には面倒なイメージを与える。
- ・ 若い方は気軽さ(フラットな関係・LINE・メール)やハードル(丁寧な受け答え・対面)を下げてあげることがポイントだ。年配の方は礼儀や形式(事前調整や書面对応、電話対応)に気を付けることがポイントだ。
- ・ この部会のノウハウだけでなく、他の活動者のノウハウを蓄積していける仕組みも必要。
- ・ 何かを始めるときに気軽に相談に乗ってくれる行政の窓口があればいい。どこに相談していいかもわからない人が、自分で全てを調べるのは難しい。問い合わせ用のフローチャートなどがあれば便利では。
- ・ 若い方は、若い方の忙しさが分かっているが故に、ボランティアに誘いにくい。
- ・ 全ての人を対象にした提案は難しいのでターゲットを絞る必要がある、フローチャートでパターン分けするなど。
- ・ コミュニティのことを理解していない人は多い、コミュニティと協力したい時にどこに行ったらいいのかもわからない。

(提案の素案)

- ・ ターゲットごとに、活動の最初にハードルになっているコアな部分に対するアドバイスを整理する。
- ・ ある人(子育て中のお母さんで、何かしらつながりを持ちたい)を想定して、ワンシートでその人の課題や悩みを整理する。
- ・ 参加者を募る団体側も、参加者の悩みやハードルになっているポイントが分かることにも意味がある。団体側も参考になる工夫をする。
- ・ 両面仕様のカードで、片面は参加者向け、片面は団体向けで作成する。
- ・ チラシ、電話、HP、LINE、インスタ、Twitterなど多様な媒体をコンテンツやターゲットに応じて使い分ける。

- ・ イラストや写真が中心のイメージで作成する。
- ・ これが完成形でなく、これから更新していけるツールである。

具体的なイメージのターゲットが、最初の一步を踏み出すためのメッセージ

(次回発表に向けて)

- ・ サンプルのシートを2パターンほど作成し、部会長を中心に発表。
- ・ ターゲットを決めて、細かいアドバイスやハードルの部分は追って意見を募る。

(サンプル案)

ターゲット

32歳、女性、双子(4歳の男の子)のお母さん、子育てに奔走、子どものためのイベントを参加したい(やりたい)、自分の趣味・活動を発表する場が欲しい

ターゲット

63歳、男性、定年退職直前、定年後の居場所が欲しい、仕事に行っていた時間をどうしよう、趣味・技術(カメラ・習字)を活かしたい人

3 閉会

第5回は、1月20日(月)、第6回は、2月17日(月)、時間はいずれも18時からで、会場は事務局から追って連絡。

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第5回A部会(R2.1.20)		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和2年1月20日(月) 午後6時00分から午後8時10分		
開催場所	川西市役所 5階 503会議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、乾美由紀、加門文男、久保圭志、田中真、名木田絢子、西村牧子、三善知子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="margin-left: 40px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 40px;">2 議 事</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) A部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが 取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="margin-left: 40px;">3 閉 会</p>		

1 開 会

○事務局

以下の2点について、事務局から説明。

(1) 職員研修について

毎年実施している「参画と協働の職員研修」へご協力いただきたい。2月17日の部会への職員参加、2月下旬又は3月中旬に職員との意見交換会(クロストーク)への協力である。

(2) A部会の提言書(案)について

B部会の釜本委員から「A部会の意見もB部会が作成している提言書に組み込みたい」との意見があり、A部会の提言書(案)を作られている。ニュアンスや意味の取違いなどないか確認いただきたい。

○藤本部部长

- ・ 提言書(案)については、ご意見があれば、概ね1週間を期限に事務局へ連絡してください。

2 議 事

(1) 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

○藤本部部长

- ・ サンプルで作成したカードを増やしていく一方で、3月末には一定のまとめを作っていくということだが、具体的にはどんなイメージだろうか。

○事務局

- ・ 3月末時点では、報告書や指針といった形式に縛られる必要はないが、第三者が見て「何故、この提案にいたったのか」がわかるものを簡単にまとめてもらいたい。
- ・ 6月末時点で、カードの活用法など3月末のまとめを深めることが出来れば、提案に広がりがあるのでないか。

○藤本部長

- ・ A部会とB部会の内容を無理にまとめる必要はないと考える。報告書などの体裁に力を注ぐよりも、どんなツールをどのように活用するのかに、皆さんのアイデアをいただきたい。
- ・ この部会の提案が、市民の意見を行政の施策に活かしていく一つの流れを作る。そして、提案の後、行政がどう動けばいいのか、市民がどう反応するのか、どういう流れになっていくのが良いのかまで提案できれば、非常にいいものになる。

(本日の議論について)

○藤本部長

- ・ 困っている人の面には具体的なペルソナを、反対の面にはその人をお誘いしたい団体(自治会やコミュニティ)、その人を支えたい団体(市民活動センターや市民団体)などが、アドバイスや自身のPRを記載するスタイルがサンプルであった。
- ・ 各委員がペルソナ(仮想の設定)を立てて、意見を出し合おうと思う。

(各委員の発表)

A委員の発表

表:女性、40代、フリーランスで働いている、子ども1人(14歳の中学生の女の子)

モヤモヤ:子どもの手が離れ仕事に集中したい、ママ友と会う機会が減ってきた

PTAの役がやっと終わり自分の時間が欲しい

裏...PTA・ボランティア

メッセージ:仕事のキャリアや実績にも使える、感謝される機会が増える

誰かのお母さんではなく　さんと認められる、交通費が出る

子育ての相談が出来る場所

- ・ PTA経験者をもう一度引き込む想定のカード。仕事をしているので、お金のことは出るなら出る、出ないなら出ないと明記する。
- ・ PTAなどが裏面のメッセージを「考える」という行動が大切だ。

B委員の発表

表...男性、30代半ば、会社員、子どもがいる

モヤモヤ:仕事があるので集まりに参加しにくい、土日は家族と過ごしたい

イクメンパパと呼ばれるプレッシャー

裏...地域団体

メッセージ:同世代の同じような人が集まれる環境、子どもも一緒に連れていき遊ばせられる

ファミリーで参加OK、パパ友も出来る

C委員の発表

表...男性、30代、子どもがいる

モヤモヤ:妻にママ友が出来て置いてけぼりのパパ、近所に友達が欲しい、

地域のことももっと知りたい、子どもも一緒にイベントに連れていきたい

裏...消防団

メッセージ:活動は月に2回、参加できる時だけの参加で大丈夫、筋トレ・走り込みはしない、

参加自由の旅行がある、報償がある、地域に役立つ、地域のイベントにも参加

- ・ 入ろうとする側からすると、消防団のイメージは悪い。上下関係や訓練が厳しいなど。
- ・ 男性に向けては、活動時間や報償の明記は大切だ。
- ・

D委員の発表

表...女性、子どもがいる(小学5年)

モヤモヤ:子どもが卒業するとママ友と会う機会も減り、人と話すことも少なくなりそう

裏...コミュニティ

メッセージ:他の子どもに関われる、PTAなどこれまでの経験が生かせる、

仕事以外の達成感、多世代との交流、先輩主婦との交流

E委員の発表

表...女性、40代、パートで働いている、子どもがいる(中学生、高校生)、

モヤモヤ:子どもの手が離れ時間の都合がつくようになってきた、

ママ友との距離が少し離れ新しい刺激が欲しい、ちょっとくらいなら手伝える

裏...福祉委員会のふれあい喫茶、放課後子ども教室

メッセージ:具体的な手伝ってほしい内容・きちんとした役割、早めの連絡、

多様な価値観に触れ合えるチャンス

- ・ 「いてくれるだけでいい」という声掛けは良くない、次から来てくれなくなる。
- ・ 手伝ってくれた人への感謝の気持ちをちゃんと伝える。

F委員の発表

表...男性、定年直前、

モヤモヤ:定年してから何もすることがない、妻は地域につながっている、会社仲間は疎遠に

趣味を持っていない、体力には自信はあるんだが

裏...コミュニティ

メッセージ:自分の家に居場所はありますか、時間の過ごし方はわかりますか

得意なことを自慢しましょう、子どもたちに自慢しましょうよ

G委員の発表

表...女性、20代、会社員、既婚者

モヤモヤ:平日昼の会議は参加できない、休日はしっかり休みたい、ご近所と仲良くなりたい

多世代の人と交流したい、ご近所の情報(お店や病院)が欲しい、

職場以外のつながりが欲しい

ここにずっと住むかもわからないから気軽に関わっていいものか

裏...コミュニティ

メッセージ: 平日の夜に交流会をやっている、お袋の味教室やります、交通費が出る

出来るときに出来ることだけを手伝ってくれるだけでも大丈夫

ボランティアの参加希望を受け付ける明確な連絡先(電話・メールアドレス)

今募集中のボランティア一覧

(発表を受けて、各委員の意見)

- ・ 作ったカードを提示するよりも、当事者が「カードを作る」ことが大切だ。
- ・ 表と裏に記載する例示を示して、当事者自身が考えて作る方がよい。
- ・ 裏(団体側)を書く人が、自身の活動前を振り返って、良かったことなどを書いてもらいたい。
- ・ カードを作るプロセスはどんなイメージだろうか。単に作ってくださいでは、考えて書かない。何らかの動機づけが必要だ。このあたりを報告書にまとめて、カードというツールの例示を提案し、是非使ってくださいという流れはどうだろうか。
- ・ コミュニティで作る場合は、総会や運営委員会の場で作るよりも、体育部会や文化部会といった部会ごとにターゲットを絞って作る方がいい。
- ・ 3月から6月にどこかの地域に出掛けて、ワークショップ形式で一緒につくるのはどうか。
- ・ 一緒に組織を変えませんか、風穴をあけませんかと投げかけてはどうか。
- ・ 地域では「変えたい」と言いつつも、上の世代はしんどいから変えたくない。本当に手を挙げてくれるだろうか。
- ・ 新しいことを始めないからいつまでも後継者ができない、代替わりできないから新しいことも始まらない。
- ・ コミュニティ協議会連合会の研修会の場で、カード作りのワークショップをやってはどうか。
- ・ 会長をはじめ役員が多く出席されるが組織を抱えているので、新たな取り組みは難しいのではないか。
- ・ 研修会の場では、仮のワークショップとして盛り上がるが、それで終わってしまいそう。

- ・ 作ることが負担にならないように、テンプレートを提示するなど工夫が必要だ。
- ・ 「自分自身を整理して、あなたのカードを作ってみませんか。」という今日話し合ったことを繰り返していけば、新しいつながりが出来ていくと思う。
- ・ 知らない人にもわかりやすいカードの名前を考えたい。
- ・ 「まちづくり」と言うとハードルが上がってしまうし、「参画と協働のカード」と言っても響かない。
- ・ コミュニティが難しければ、知り合いのNPOや小さな団体とでも一緒にやってみるのもいいと思う。自分を整理する、本物のカードを作る、作ったカードの発信の仕方やSNSなどで発信する。こういった流れが成果になる。
- ・ 3月の報告イメージは「現状・課題、解決のためのトラップカード作り、カードの見方・活用方法、例示のカード集」で、4・5月で何かしらワークショップをやってみる。ワークショップ参加者の意見や感想を聞いてみるはどうだろうか。

(次回の進め方について)

○藤本部長

- ・ 次回は3月のまとめを作っていく。現状・課題からカードまでの提案を私が、カードの見方・活用方法やカード集を皆さんで考えてもらいたい。
- ・ 次回までに今日のようなアイデア、カードの見方、活用方法などをまとめておいていただきたい。
- ・ 研修生については、カード作りに参加してもらいたい。

3 閉 会

第6回は、2月17日(月)18時からで、会場は503会議室の予定。

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第6回A部会(R2.2.17)		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和2年2月17日(月) 午後6時00分から午後8時10分		
開催場所	川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、加門文男、田中真、名木田絢子、西村牧子、三善知子、乾美由紀	
	その他	参画と協働のまちづくり研修生	
	事務局	総合政策部参画協働課 課長、課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="margin-left: 40px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 40px;">2 議 事</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) A部会のテーマ</p> <p style="margin-left: 80px;">「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが 取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="margin-left: 40px;">3 閉 会</p>		

1 開 会

○事務局

本日は、市職員研修の一環として、11名の職員が参加する。後程、トラップカードの作成や委員との意見交換などに参加させていただきたい。

○委員及び研修生の自己紹介

2 議 事

(1)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

○藤本部長

- ・ 本日は、3月の全体会に向けて発表の準備を行いたい。これまでの議論をまとめると、
現状・課題
解決のためのトラップカード作り
カードの見方・活用法
例示のカード集
の4つに整理できる。「現状・課題」については、私で整理してきている。
- ・ みなさん前回発表できていないアイデアや整理されてきたものがあれば共有したい。

○加門委員が、コミュニティの当事者として課題解決の糸口となるまとめを提供

○田中委員が、トラップカードに記載するキーワードの一覧を提供

(各委員の意見)

- ・ 裏面(団体側)の記載例は、こういったメッセージが書いてあると、表面(参加側)が参加しやすいし、団体側の活動の見直しにもつながる。
- ・ 団体側は、自分が活動を始めたころを思い出して、そのきっかけなどを書いてほしい。

○藤本部長

- ・ 「 例示のカード集」は、今提供されたものを参考にまとめていけばいいと思う。「 解決のためのトラップカード作り」と「 カードの見方・活用法」をどのようにまとめていくか。

(各委員の意見)

- ・ と は、報告会でワークショップを実演してみるのはいかがでしょうか。文章でまとめるより伝わりやすいと思う。
- ・ はトラップカードの考え方・コンセプトとカード作りにかける思いなど、 の課題を受けて解説策としてトラップカードを示した理由などをまとめる。
- ・ はカード単体の見方と具体的なシチュエーションの下での活用方法やカードを作ることの意義などをまとめる。表面(参加側)・裏面(団体側)両方の立場で活動を考えるきっかけになる。
- ・ は研修生にも参加してもらいたい。市民との関わりで気付いたことや自身の体験からサンプルを作成してほしい。

○各委員と研修生が作成作業

- ・ 藤本部長： を作成。
- ・ 名木田委員・西村委員： を作成。
- ・ 田中委員・乾委員： を作成。
- ・ 加門委員・三善委員： を研修生と作成。

○研修生が作成したトラップカードを発表

○名木田委員・西村委員が作成した を発表

- ・ ターゲットとする人に「手に取ってもらう」ことを重視した、トラップカードのスタイルとなった。
- ・ カードを読んだ人が参加したくなる内容を、団体側に考えて自分たちで作ってもらう。

○田中委員・乾委員が作成した を発表。

- ・ カードのサンプルを示して、項目ごとに見方を説明する。
- ・ カードは、団体側に当事者の立場で作成してもらい、両面印刷して使用する。
- ・ 表面は、参加してほしい具体的なターゲットを想定して、モヤモヤ(悩み)を記載してもらう。
- ・ 裏面は、グループの趣旨、特徴、時間、有償無償、団体にたどり着きやすい検索方法(QRコードなど)を記載してもらう。
- ・ いずれも「参加したころの自分を振り返って」考えてもらうことが大切である。
- ・ 活用方法は、イベントで配布、広報誌に掲載、掲示板に貼る、施設に設置など。

(次回発表に向けての準備)

- ・ この資料(パワーポイント)をベースに、キーワードだけではわからない説明の部分を文章化して報告書を作成する。
- ・ 今後の展開(4月以降にワークショップ)については、藤本部長が整理する。
- ・ 各委員が作成したパワーポイントの取りまとめは、西村委員が行う。
- ・ 発表については、各パートを作成した委員が分担して行う。
- ・ については、サンプルカードを3つほど掲載する。現状の2パターンに加えて、名木田委員が、新たに「若い男性パターン」を作成する。また、ターゲットごとに整理したテキストの一覧を田中委員が作成する。
- ・ トラップカードのサンプルは、事務局で両面印刷のうえ報告会でも配布する。

(4月以降のワークショップについて)

○乾委員

- ・ 多田東コミュニティの会議でトラップカードの話をしたところ、みんな興味を持ってくれた。特に福祉委員会が今年の6月から新しい取り組みを始めるにあたり、活動してくれる人を募りたいと考えており、ワークショップに前向きである。
- ・ 取り組みのスタートは6月だが、福祉委員会は3月にチラシを作る予定で、ワークショップも

すぐにやりたい様子であった。

(各委員の意見)

- ・ いいタイミングなので、多田東でやってみようと思う。
- ・ 時期は、福祉委員会のメンバーが参加しやすい日程を乾委員に確認いただきたい。
- ・ 4月にワークショップ、5月にそのまとめをして、6月の全体会で発表というスケジュールで進めていく。
- ・ 一度ワークショップをする前に福祉委員会の方とお話して、ワークショップの段取りなど相談のうえで、本番のワークショップを行いたい。

3 閉 会

次回の全体会は、3月18日(水)の18時半からで、会場は大会議室。

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和2年度第1回A部会(R2.7.9)		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和2年7月9日(木) 午後7時00分から午後9時00分		
開催場所	川西公民館 講座室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、鈴木光義、加門文男、乾美由紀、田中真、赤木牧子、三善知子、名木田絢子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="margin-left: 40px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 40px;">2 議 事</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) 今後の進め方等について</p> <p style="margin-left: 40px;">(2) A部会のテーマ</p> <p style="margin-left: 80px;">(仮)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="margin-left: 40px;">3 閉 会</p>		

1 開会

事務局にて進行。

2 議事

A部会テーマ

「(地域・市民活動に対して、)やる気や興味・関心が薄い方を巻き込んでいくには」

○協議事項

「多田東地区福祉委員会」の担い手募集のイメージをつめるため、部会メンバーが出向き一緒にワークショップを開催する。今回は、そのためのワークショップの内容や、日程調整などを話し合う。

○委員の意見・提案・地域の状況

多田東福祉委員会の状況や考え(乾委員より)

- ・コロナの影響で多田東コミュニティの行事は、8月末に多田東マルシェがあるくらい。
- ・例年の行事が中止になって、小さな課題の協議をする良い機会ではないかと思う。
- ・多田東の福祉委員会では、「助けてほしい」ことがあり、二人一組での有償ボランティアを募っている。
- ・活動内容は、ゴミ捨てなど、日常生活での困りごとがある。
- ・福祉委員会のメンバーが担い手になってしまうと、小さい中で回さなくてはいけないので、地域の方を巻き込んで広めていきたい。福祉委員会のメンバーは、コーディネーターとして活動する。
- ・福祉委員会としての考えは、A部会とのワークショップを通じて「こんな人に来てほしい」、「こんな人が地域にいたらいいな」などの思いを参考にカードを作成してもらい、コミュニティセンターで掲示して、それを見た方に「自分呼んで」という気づきをもってもらいたい。

主な意見

- ・カードの紹介、内容の感想などをヒアリングして課題を引き出したい。
- ・川西市に提案するまでにブラッシュアップしていきたい。
- ・どのコミュニティ協議会でもボランティア(無償・有償)の募集はしている。
- ・地域によって課題は違うので、求める人材が違う。
- ・カードの内容は、集め方にするか、人材発掘にするか検討が必要。
- ・他のコミュニティ協議会では、有償ボランティアを募集する際に地域で使えるチケットを発行したが、使える場所などが限定されていて使用しづらかった。
- ・コミュニティの構成団体の自治会は、「自治会離れ」「高齢化」が進んでいるので、次世代に引き継げる方法を探している。

・次世代の意識啓発の方法として、防災士の研修を検討している。(防災の人材育成のため)
・地域組織の中に地区福祉委員会があり、社会福祉協議会と連携している。コミュニティ協議会での地区福祉委員会は、福祉委員会(部会)にはまっけていて、委員長や、メンバーと一緒に行事によって使い分けている。

・A部会の名称

「トラップカードを作る会」～やる気や興味・関心が薄い方を巻き込んでいくには～

・全体会での発表方法は、議事録を参考にする。

今後のスケジュール

・多田東 福祉委員会とのワークショップの日程調整は、福祉委員会に合わせる。

・ワークショップでの部会メンバーの役割分担・内容を決める。

・活動してもらいたい人材のイメージや、募集による苦労話をヒアリングしたい。

3 閉 会

事務局にて進行。

○事務局

次回の開催について日程調整をお願いします。

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和 2 年度第 2 回 A 部会 (R2.8.21)		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和 2 年 8 月 21 日(金) 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分		
開催場所	ウェブ会議システムにより開催 (傍聴場所:川西市役所 3階 301 会議室)		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、鈴木光義、加門文男、乾美由紀、田中真、三善知子、名木田絢子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 副部長兼課長、課長補佐、同課主任 2 名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">1 開 会</p> <p style="text-align: center;">2 議 事 A 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="text-align: center;">3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局にて進行。

2 議 事

A部会テーマ

「(地域・市民活動に対して、)

やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

○藤本部長より

「多田東地区福祉委員会」の担い手募集のイメージをつめるため、部会メンバーが出向き一緒にワークショップを開催します。鈴木委員より、「自治会それぞれの課題があるので、カードを使って解決したい」と申し出がありましたので、今回は鈴木委員の自治会を想定し、模擬ワークショップを行います。これから自治会に出向いたときの段取りをつめていくので、順番や大切なことなど、皆さん意見をだしてください。

・本日の進行について

1.配役を決める。

トラップを仕掛ける人 (田中真委員、乾委員)

ワークショップを進める 人(鈴木委員、事務局1名) 当日は、自治会員。

トラップカードを作成する人 (藤本部長、加門委員、名木田委員、三善委員、事務局1名)

・当日のワークショップを想定しながら進行し、説明の内容、順番、重要点などの意見を各自委員が述べていく。

流れとしては、初めはトラップを仕掛ける会が出向く設定。

2.各自紹介する。

トラップを仕掛ける会

団体、 という目的を持って、 したいと考えている。

自治会

活動していて、 の悩みがあるので、 な人が集まって欲しいので今回カード作のワークショップを行うことになった。

3.ワークショップの方法について説明する。

カード作成方法の説明や、作成時のアドバイスをする。

カードの完成後は、カードについての充実させたい部分の振り返りや、次回どこで使用するか検討する。

4.本日の模擬ワークショップについて振り返る。

- ・トラップを仕掛ける会の今後の展開について検討する。
- 以上について、委員からの意見・提案

自治会側の参加者の選定について

- ・カードを作成する人は分けるのか。
- ・トラップを仕掛ける人とワークショップを進める人は一緒にいいか。
- ・ワークショップの進行役は、トラップを仕掛ける会でよいか。
- ・進行役は幹部で、カード作りは活動に消極的な班長さんがよいのではないか。
- ・技術的にはトラップを仕掛ける会がフォローするが、ワークショップの進行役は幹部ではどうか
- ・何人ぐらいでワークショップするのか。
- ・カードの作成は、ヒントがたくさんある中で作成したい。
- ・5～6人を1グループとして考えてはどうか。
- ・事前の打ち合わせがない場合、説明を詳しく教えてもらわないとわからないので集まる人数は、A部会側の都合で決めてほしい。
- ・鈴木委員の自治会役員は、幹部を含めて約10人。
- ・鈴木委員の自治会側の意見としては、
幹部以外の班長は、順番に役が回ってくるので仕方ないという意識がある。トラップを仕掛ける会の呼びかけで、自治会の問題を積極的に打ち明けてもらい、それを解決するための会であると示してもらえれば呼びかけに乗ってもらえるのではないか。
- ・カードを作る人の意識を啓発するためでなく、やる気のある人を引き込むためのカード作りではないか。
- ・自治会役員だけか、他の人も呼ぶべきか。
- ・班長になりたくないと考えている一般の人は参加しないと思う。
- ・そもそもカードでいきなり幹部をひっかけるのは難しい。それよりは、楽しく役員をしてくれる人をひっかける方がよいのではないか。
- ・自治会側の参加者選びは重要である。
- ・自治会側の参加者は、自治会役員だけの約10人で行う。

5. 模擬ワークショップの実施

実施内容は、以下のとおりである。

自治会の概要

自治会加入世帯：1750世帯 自治会員：772名

自治会の中は、隣保で10から20軒くらいずつに分かれている

隣保長は、回覧板の発着するお家

隣保の上は、班。班長が役員会に出席

重要課題

- ・自治会離れ ・高齢の役員 ・災害対策 ・自治会の役割大きい ・人材確保 ・人材育成

カードのイメージ

表面について

やる気があり積極的だが取り組めていないという、ある人の具体的なイメージ、その人の疑問・悩み

裏面について

表面の悩みや疑問の答え 活動の具体的な内容や条件（有償か無償かなど）

参加して欲しい人の具体的なイメージ（属性）

- ・男性
- ・年代 40代
- ・大阪に勤務 現役
- ・子どもは中学生になって、子育て落ち着いてきた
- ・なんでも妻に任せてしまっている

特徴

- ・防災には興味ある。
- ・避難訓練するべきだと思う。
- ・非常食が食べてみたい。
- ・消火器の操作をしたことがない。

不安

- ・もしものとき、どこに避難したらいいのかわからない。
- ・地域に知り合いがいらないから、災害時に助けてもらえるのか不安。

具体的な活動内容や条件

- ・非常食が食べられる（ドライカレー、羊羹など）。
- ・消火器の使い方を教えてもらえる。
- ・家族で、土日の短時間で参加できる。
- ・炊き出しに豚汁もでる。
- ・避難場所でキャンプできる（子どもが喜ぶかも）。
- ・自治会加入率は40%で、その人たちと繋がることできる。
- ・趣味ともが増えるような、自己紹介ができる場（同世代が集まる場所）があれば。

カードを作るときのポイント

- ・(両面作成 テンプレートもあり) テンプレートを用意して、それを参考にカードを作る人たちの言葉でつくる。
- ・カードづくり 20分
- ・A部会メンバーも入って作る。

- ・団体以外の人である部会メンバーが入ることで課題が見えてくる。

発表省略

振り返り

模擬ワークショップできづいたこと

重要点

- ・説明は、カードの見本やテンプレートを使用する。
- ・問題点・データがわかる役員たちと、疑問を投げかける役割のトラップの会は、メンバーやトラップをしかけたい人と情報共有する。
- ・カードをつくることを通して、イベントなど対象のグループの活動内容を見直すきっかけになった。

期待できること

- ・マナー化回避のため、避難訓練のあり方を変えていくことにつながる。
- ・幹部の「ありがたいなあ」というような本音を役員幹部以外が聞くことができたとしてもよい機会になる。

自治会の世代別意見

- ・自治会員は70代以上で、現役世代にあまり負担はかけられないと感じている。
- ・30代からすると、自分自身が必要とされているなど感じていない。
- ・現役世代は、具体的な誘い「餅つきに来てよ！」があれば行きやすい。

時間配分

- ・発表や振り返り 20分では短い

本日のワークショップ 約1時間

- ・トラップを仕掛ける会の紹介 3分
- ・自治会の紹介、自治会(委員)の求める人材 3分
- ・ワークショップの方法について説明 10分
- ・カードづくり 20分
- ・発表 5分
- ・振り返り 20分

3 閉会

事務局にて進行。

○事務局

次回、全体会の開催については、9月の予定で日程調整をお願いします。

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和 2 年度第 3 回 A 部会 (R2.10.29)		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和 2 年 10 月 29 日(木) 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分		
開催場所	ウェブ会議システムにより開催 (傍聴場所:川西市役所 5 階 501 会議室)		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、鈴木光義、加門文男、乾美由紀、三善知子、 名木田絢子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 副部長兼課長、課長補佐、 同課主任 1 名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">1 開 会</p> <p style="text-align: center;">2 議 事 A 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り 組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="text-align: center;">3 閉 会</p>		

1 開 会

○事務局より

提言書作成について

- ・12月の全体会での提言書(案)の発表に向けて、ある程度要素を出して頂きたい。
- ・11月の部会では、今までの議論の中で見えてきた課題など、ポイントごとに整理できるような議論をお願いしたい。

2 議 事

A部会テーマ

「(地域・市民活動に対して、)

やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

○藤本部部长より

本日は、提言書作成に向けて、次回のA部会(11/30)で資料をまとめなければならないので、それまでにワークショップの積み重ねによる事例を集める。ワークショップの対象団体、模擬ワークショップでの課題「自治会加入のお得感」のアイデア出し、トラップカードの内容イメージなど、皆さんいろいろ意見を出していただきたい。

・本日の進行について

外部ワークショップ対象グループ候補

候補

多田コミの防災士会

北陵コミ 青少年育成推進委員会 「Come on 北陵小学校」

学校の先生へのボランティア

コロナの影響でイベントが中止になり立ち上げた

市民活動センターの紹介で検討

候補は、部会長が本日欠席の方とも話し合っただけで決定したいと思う。

模擬ワークショップでの課題「自治会加入のお得感」について

- ・活動してもらう人の気持ちを湧き立たせられるか、カードを使って魅力ある展開ができれば良いと思う。
- ・若者に対してのお得感をカードに盛り込めばよいのではないか。
- ・前回模擬ワークショップでのお得感で検討すると、自治会の活動パターンを変えないと若い世代を引き込むのは無理ではないか。
- ・こども会と自治会の状況は似ているので発言するが、私は、こども会の総務をしていて自治会の加入率の低下は影響を感じる。こども会のメンバーは、約 80 名。総務は6名で運営している。自治会の加入率が低下すると、自治会からの補助金額が減るので今までどおりのイベントはできない。そうすると、母親たちの負担が大きくなるので、イベントをやめるしかない。…協力者が減る。という悪循環になっている。なので、現在のこども会では、イベントの見せ方を変える方法で対応しており、内容も比重を考えて誰もが参加できて楽しめるものにした。
- ・北陵地域では、自治会加入率 42～43%。こども会のメンバーは約10名。こども会の予算は、(バスの遠足に)30万。老人会はメンバー150名、予算10万である。これは、こども会の予算30万との差が激しいので不満があがる。(自治会離れの原因)
- ・自治会活動も、コロナの影響をきっかけに自治会活動の内容を変える方向にしてはどうか。
- ・大和自治会では、コロナの影響をきっかけにクッキングをやめようとなった。
- ・多田東地域では、毎年恒例のイベントで仕方なくやっていたものが中止となり、自治会の執行部の考えはわからないがイベントを開催しなくてもまわっていくのだと感じた。
- ・小学校の行事では、自然学校での泊りの体験ができなくなって、学校側で山でのキャンプやピザ窯を造ること、裏山に登るなどしている。また、小学校の脇には「台場クヌギ」があるなど地元に戻ってきた感じがして資源の再発見、再利用が出来ている感じがする。
- ・今までは、「台場クヌギ」はハチの巣をつくるので邪魔と思っていた。
- ・小学校の先生たちの知恵として、コロナ禍でのイベントを、地元で出来る事として再発掘している。コロナの影響で、地域の力をためられている感じがした。
- ・大学では、地域の博物館において「町おこし」をしている。それで感じることは、観光資源を発見するのではなく、昔ここで「何をしていたか」を専門家から聞くのではなく、地元の昔から住んでいる方から聞いて「味わう」のはおもしろい。お年寄りの方の「出番ですよ」になるのではないかと思う。
- ・「町歩き」は、若い方々が自分の地域を知るきっかけになる。
- ・加茂の地域では『地域の歴史を知るハイキング』という、昔からの住人に「昔ここに何かあったよね」と教えてもらいながら歩くイベントがある。
- ・地域の資源を知ることは、大切なことで、昔からあることである。自治会の役員は地元のことをよく知っているので自治会加入のお得感になると思う。
- ・回覧板の個人情報に気になる。
- ・班で回覧板をまわしている。用紙の一覧に行事の参加希望者は個人情報を記入する。ものによっては年齢も記入しなくてはならない。最後の人に全部知られてしまうので不満の声があるが、自治会員の年齢層が高いので紙ベースで回覧している。
- ・回覧でまわす行事の申し込みは、別紙に必要事項を記入して班長にわたすので個人情報は他者にもれないようにしている。
- ・違う地区は、回覧板はデータ化してメールかLINEを活用している。

- ・募金については、必ず手渡ししている。

トラップカードの内容イメージ

- ・同じような仲間を集めるためのカードにしてはどうか。
- ・ポイントを絞った方がやりやすい。
- ・刺激的な内容を盛り込んでどうか。
- ・すぐに活動してほしいので、トラップカードの裏面にインパクトをつけたい。今改善しないと2025年には、自治会を運営する人がいなくなるかもしれないという危機意識をもってもらいたい。
- ・A部会のテーマは「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」であるので、厳しい言葉で呼びかけても良いと思う。
- ・従来からの自治会会員は口出さないことを条件に、若い世代の方々に5年後、10年後の改革をまかせてみてはどうか。
- ・(外部のワークショップ対象グループとして多田コミュニティ協議会の防災士会が決定したことをふまえて)
- ・多田の防災士は男性2名、女性4名。働き盛りの年齢、前向きなアイデアを出す方々で、このような方々(ターゲットは若い世代)を第二、第三と引き出したい。

トラップカード作りの考察

- ・防災士を増やすよりも、地域の防災を考える人達を増やすような内容にする。
- ・防災士の方々に、防災士になるきっかけや、自分達のような方々を増やすためのトラップカードの裏表面を書いて欲しいと説明してはどうか。

ワークショップ開催予定

- ・勉強会的なワークショップを行う。
- ・各ワークショップ、部会委員3名ずつぐらいで出向けたらOK。
- ・外部のワークショップ第1弾は、多田コミュニティ協議会 防災士会(4~5名)。

日 程：令和2年11月28日(土)14:00~16:00 予定

場 所：多田コミュニティ会館(多田公民館裏側)

3 閉 会

事務局にて進行。

○事務局

次回、A部会の開催については、11月30日の予定です。

12月の全体会の日程は調整中です。

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和2年度第4回A部会(R2.11.30)		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和2年11月30日(月) 午後7時00分から午後9時00分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、鈴木光義、加門文男、乾美由紀、田中真、三善知子、名木田絢子、赤木牧子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">1 開 会</p> <p style="text-align: center;">2 議 事 A部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="text-align: center;">3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局にて進行。

2 議 事

A部会テーマ

「(地域・市民活動に対して、)

やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

本日の進行について

本日は、12月の全大会での提言書(案)について、検討し、作業の段取りをしたい。

市から提案書に必要な項目が例示されている。これをもとに、具体的内容について検討したい。

提案書に必要な内容

部会のテーマ

テーマの説明

検討事項

現状

課題

解決策の提言案(トラップカードの説明、カードづくり、ワークショップなど)

今後3月末までにやること

ワークショップの振り返り(ワークショップ1回目と2回目との違いや、工夫した点について)

1回目:さわやか北摂(千の里)

・さわやか北摂は、組織がしっかりしていて方向性がきまっているので、困りごとの再認識は必要ないかもしれないと感じた。

・ワークショップの時間はたまたま90分にした。あっという間で「もっと時間がほしい」と感じた。

2回目:防災士会

・鈴木委員のホームグラウンドであるコミュニティのメンバーであったので安心感があった。

・偶然、女性と男性グループにわかれた。部会メンバーがグループに入り、トラップカードの表面の求める人材像のイメージを考えていた。そのうちに、防災の避難訓練に人を集めたいという話になって、そこから一気に加速して盛り上がった。トラップカードづくりまでには至らなかったが、防災士会の悩みやA部会の第三者の意見などもすべて書き出して、その意見を付箋に書いて

整理し貼っていった。最後は、問題点と解決できそうな意見を整理した。

- ・時間が足りなくてカードづくりまでに至らなかったが、持ち帰ってもらい、仕上げてもらえたらOKだと思う。
- ・A部会の第三者の意見を、新しい視点としてとらえてもらった。
- ・以外と、話は途切れず、楽しくできた。
- ・集まりでのイベントの話だと、打ち合わせになるだけで、どんな人を呼びたいかまでにはならないと思う。
- ・カードづくりの前段階が必要だと思う。
- ・1回ではだめ。コミのイベントで年にサマーフェスティバルとか運動会とか年に3,4つあるのでひとつひとつターゲットを絞ってカードづくりをする・・・それがこのカードづくりの良さだと思う1回ではめげない。懲りずにすることが大事だと思う。
- ・ワークショップの時間はたまたま90分にした。あっという間で「もっと時間がほしい」と感じた。
- ・団体の合同ワークショップにおいて、お互いの団体の説明をしてもらい、団体内部の困りごとを再確認してもらうことが大切だと思う。
- ・今回の2回のワークショップでは、対象団体に恵まれていた。こちらの目的が的確に伝わっていないと相手にされない。
- ・タイムスケジュールは大切だと思う。時間が足りない、時間がほしいと思うぐらいが調度いい。
- ・鈴木委員の事前説明があったので、防災士会はうまくいったと思う。

ワークショップの方法について

- ・例えば、30代のサラリーマンと設定したときに、そういう対象者がカードを見たときに「自分でもOKだな」と感じて欲しい。
- ・最初の設定を具体的にはっきりさせることが大切だと思う。
- ・振り返りをしたときに、男性グループの話も聞きたかったという声があった。
- ・ワークショップの時に、防災士会のメンバーから愚痴がなかった。そのような前向きなメンバーが住んでいることを紹介すれば、「その地域に住みたい、活動したい」と思ってもらえるのではないかな。
- ・ワークショップは、常にはじめての人がいることが考えられるので、そのやり方は細かく示す必要がある。
- ・活動団体にとって、第三者からの意見は有効である。複数の団体同士でワークショップをやれば、互いに第三者になって有効な指摘をしあえるのではないかな。
- ・動画や、QRの作成方法を、レクチャーをするのもよいと思う。

動画QRの活用について

- ・ワークショップの様子や団体等の紹介動画を作成するとよい。
- ・例えば、防災士会の男性の振り返りが良かったのでその振り返りや、グループ紹介などの動画を撮影してQRコードで知らせられるようにしたらよい。
- ・防災士会の後日談で話がでた。みんな、感動していた。会議での様子をQRコードで知らせられるようにしたら手っ取り早く伝わる。
- ・地域の顔が見えるのは重要。スタッフのメンバーがわかるのはよい。

- ・欲しい人材や悩み事を込めたトラップカードは例題として挙げてよいが、白紙のものをその都度記入してもらうことで前進するし、新たな内容を引き寄せる。
- ・地域でも使えるような内容のものにする。
- ・YOUTUBE にあげて “カードづくり 一覧で閲覧できるようにすればよいと思う。
- ・商工会でもお店について、QR コードを使って紹介している。
- ・志の高い、立派な人ばかりだと仲間に入りづらい。良いことばかりをアピールするのは難しく、受ける側は冷めた目で見えてしまうのではないか。
- ・動画もこらなくてよい。等身大の人の話を1～2分の動画にしてはどうか。5 分の動画になると見る気持ちにならない。
- ・60代以降は、動画をみるのは難しいかもしれない。
- ・総務部会のような中枢の部会には 70 代以上のベテランが多く、変化を嫌い「いつも通りでよいのでは」という話になる。
- ・コミュニティでもデジタルに切り替えている過渡期なので両方おさえる必要がある。
- ・いろんな形があってよいのではないか。
- ・これからオンラインじゃないといけない時代が来る。

地域課題発見型とカードづくり型について

- ・表面と裏面でトラップカードをつくる日を分けてはどうか。
- ・カードづくりと準備会(説明会)を分けて別日にしてはどうか。
- ・今回の二つのワークショップでは、赤木委員や鈴木委員が事前にA部会の概要を知らせてくれたから、準備会が必要なかったのではないか。

継続できるしかけについて(根付かせるため)

- ・防災士のメンバーは素晴らしかったので、もう一度同じメンバーでやってほしい。
- ・防災士会でいいのであれば、よく防災士会で集まるのでワークショップはできる。
- ・防災士会やさわやか北摂さんは、2 回目以降が気になる。
- ・今年は、コロナの影響によりイベント中止となって時間があるので、防災士会の活動だけでなく、来年の他のイベントについても検討できる。
- ・有効なカードの置き場所を設定することも重要である。
- ・自分のところでは、やることに追われていて、担い手が欲しいなど、いろいろ検討したいのに、そこに至るパワーがないので、新しいことを提案しても受け入れてもらえない感じがする。何年やっても同じだと思う。
- ・他のコミでのまちづくり委員会は、北小で気球を飛ばしているときけば、うちでもやりたいと声はあがる。
- ・コミでは、一括交付金による年間計画が決まっていて、なかなか新しいことができない感じがする。
- ・A部会がずっとついてまわるのは無理。各団体でルールブックを持って帰ってもらえると良いと思う。
- ・防災士会に例えると、防災士会が次の団体の指南者になればよいと思う
- ・どのように継続させるか。ずっと残さなければならない、「継続できるかもしれない」ではできない

のではないか。

- ・イメージとしては、まわしよみ新聞。誰でも使えるノウハウとして提供している。
- ・楽しいゲームやイベントならば、活用される。
- ・ロハスミーツも、集客方法や、行政との交渉方法などのノウハウを提供している。

カードを置く場所

- ・カードをつくって、広報に載せる。
- ・商業施設においてもらう。

広報誌や他の媒体について事務局と協議

- ・それぞれの団体がつくったトラップカードを期限付きなどで載せられるのか。
- ・(事務局)市のHPにおいては、参画協働課のスペースに掲載することはできる。
- ・(事務局)トラップカード(テンプレート)は、掲載可能だが、個別に作成されたカードは難しい。
- ・広報誌になると、紙面のページが多くなるし無理ではないか・・・それよりも、人がよく行く有名スーパーの方が現実的で効果的ではないか。
- ・合同イベントを実施すれば、メディアに取り上げられるのではないか。

役割分担についての話し合い

役割分担

ワークショップのやり方(カードづくりの説明) 赤木委員

時間配分・プログラムの内容・会場セッティング・人数・役割分担・準備物

動画QRの活用 田中真委員

A部会のワークショップの様子・団体等の紹介動画(コミなど)

地域課題発見型とカードづくり型 名木田委員

継続できるためのしかけ 三善委員

合同イベントの開催

カードの置き場所 乾委員

その他

- ・このカードづくりは、市の(仮称)地域人材マッチング事業に関係するのではないか。
- ・他市のまちづくり協議会の会長の話ではあるが、移住希望者に「すぐに決めるのではなく、週末に通って農業体験や行事などに参加してみてはどうか。」とアドバイスするという。そのような期間が最低1年は必要だという。
- ・移住希望者に幼稚園児の子供がいる場合など、幼稚園側や父兄に事前に移住者のことを伝えておいて、幼稚園の行事に体験参加させるという。そうすれば、まわりの父兄から声かけをされて、移住者は、気持ちよく過ごすことができる。それくらい丁寧な対応が重要なのだと思う。

3 閉 会

事務局にて進行。

○事務局

全体会の開催については12月15日、午後7時からの予定。

また、次回、次々回のA部会の開催については、令和3年1月22日、2月12日いずれも午後7時から開催予定。

ワークショップ『さわやか北摂（千の里）』（R2.11.23）

さわやか千の里の概要

- ・川西市で唯一の福祉有償運送サービス事業
- ・利用者は、要介護の方や障がい者
- ・高低差の激しい地域で移動には必要な事業
- ・地域では、自治会でほとんどまかなえるのでNPOと地域との関係性が難しい
- ・チラシや通信に募集をのせているが応募が少ない
- ・ドライバーの条件で介助の講習が必要であるが、無料で受けられる
- ・ドライバー16名、利用者10名（毎日）でドライバー不足

スケジュール

- ・トラップを仕掛ける会の紹介 10分
- ・自己紹介 10分
- ・カードづくりの説明と実践 30～40分
- ・ふりかえり 30分

部会の紹介

自己紹介

さわやか北摂 前理事長 久恒 千里さん

- ・現在は、事務所の仕事に就いていない
- ・全体みながら25年ぐらい継続して、4か月に一度、通信や記念誌を発行している

さわやか千の里 理事長 高田さん

- ・9年前に久恒前理事長と知り合い、現在、2年前に代表を引き継いだ
- ・行政の代わりに久恒前理事長が先陣をきり、地域のまちづくりを始めて、ずっと続けてきた
- ・たすける活動（家事サービス）と移送サービス（移送手段の確保）はどこ地域でも大きな課題である
- ・特に移動困難者に対しての移送手段の確保は大きな課題であり、福祉移送サービスは国から認可を得ていて、川西市ではさわやか千の里が唯一である
- ・福祉有償運送の運営協議会の委員をしている
- ・福祉の交通関係の委員であり、川西市の介護保険委員会の委員をしている
- ・福祉と交通の委員をしていて、どこでも課題である移動手段、高齢者、要介護支援者、障がい者、の交通手段の確保を継続させていくのが自分の使命だと感じている

さわやか千の里 理事 中谷さん

- ・デイサービスのドライバーと、たすけあいの家事サービスをしている
- ・利用者がふえているが活動者が増えないので増やすPRをしたい
- ・チラシを配っても効果がない

記念誌について

・5冊目。5年ごとに発行している

-1 トラップカードの説明(田中真さん)(30~40分)

- ・トラップカード(畏をかける)
- ・募集要項をトラップカードと名付けている
- ・「興味があるけどきっかけがない」とか「敷居が高い」という敷居をまたいでもらったらポンポン進むのではないかとということで、手に取ってもらいやすい募集要項(=トラップカード)を提案している
- ・手に取ってもらって見てもらうことが重要だと話し合いの中で何度も出てきて、どうすれば手に取ってもらえるか考えた結果、トラップカードという形になった。
- ・3種類ある。
- ・募集要項は、「誰に」向けて「どのようなタイプ」の人に対するものかをハッキリさせる
- ・カードの表面は不安なことを、裏面は希望する人物像を記入する
- ・ハッキリ、具体的に記入するようにしている。
- ・具体的に、団体の概要や雰囲気が伝わるようにインターネットで検索して、たどり着けやすくする
- ・QRコードもチラシにつけている
- ・持って帰りやすい大きさにしている。またカードは置くのではなく、吊るす
- ・トラップカードは、きっかけを探している人のためのもの
- ・

カードについて、久垣さんの感想

- ・通信にも同じようなことを載せるが、一般の人にはなかなか響かない

-2 カードづくりの説明

- ・カードづくりは、市の審議会によるものなので、うまくいけば市内でいるんな場所に置ける
- ・今回は実験的なワークショップなのでどんなことでも意見してほしい
- ・どんなかたに来てほしいか、イメージしてほしい
- ・年代によって日常の現状が違うので、年齢は(何歳から何歳まで)ハッキリ具体的にしておけば、年代による活動の条件が明確にできる
(Ex.30代は、日中は無理なので土日。60代は日中OK)

久垣さんの思い

- ・家に居て奥さんに怒られるような退職後の人をターゲットにしている
- ・若い人は「職業」にしたいが、退職後の人は「人の役に立つ」ことがうれしい
- ・定年後で、性別は関係ない
- ・種類によって人気の性別はある
- ・例えば、退職後の人(65~75歳)は、

高田さん、中谷さんの話

- ・安全運転の研修がある
- ・7割市内で、ほとんど川西能勢口の病院に送ることが多い
- ・大阪市内や吹田の阪大病院まで何人か送る
- ・料金もタクシーの半分
- ・車は個人の持ち込みは、個人の任意保険
- ・もらい事故がある
- ・実働車は3台しかないので、持ち込みの車がうれしい。

(委員) メリットとして「運転しやすい自家用車OK」と記入できる

- ・事実を明らかにして、他をアピールしたらいい(安全運転研修あり etc)

(委員) 「安全運転の人にぴったり」とか安全に自身があるひとにむけてのメリット

- ・行き帰りの時間の空き時間は待機している。

(委員) メリットとして1~2時間ぐらいあるが、考えかた次第で、拘束を自由時間にできる

- ・ドライバーの都合で活動時間が決められる(片道のみOK)
- ・川西の市内市外を選択できる
- ・運転が好きなひとが来る
- ・謝礼金は距離により違う 利用者がタクシー料金の半額支払い、謝礼金は5.5割
自家用車8割以上

- ・水明台から川西能勢口まで、1200円。

- ・5.5割なら約700円

- ・介助が必要で、ドライバーの条件で介助の講習を受講しないとイケない

(委員) 安心感がある

- ・さわやか北摂が講習指定の認可を受けていて、無料講習をしている。通常約1万円かかる。(委員)
それはメリットになる

- ・受講した人は、2~3年ぐらいは活動してほしい

- ・ドライバー16名。利用者は、毎日10名ほど。午前中の8時、9時にかたよる。

(委員) 「午前中だけ」とかに絞ると集まりやすいかもしれない

- ・「午後」のニーズでは、午前からの帰りのまたぎになる。

(委員) 利用者にとっては、行きも帰りの同じドライバーが良いと思う

- ・ドライバーは介助はしないが、さわやかでは手厚くしている

(委員) メリット「介護技術が身につきます」

- ・ドライバーではないが、他の活動の志望動機に「親の介護」があるので、メリットになると思う

- ・利用者は、要介護支援1からで他には障がい者など。

- ・(委員) 一般の高齢者だけだとコミュニティバスと競合してくる

ふりかえり(30)

- ・トラップカードの置き場所は

(委員の意見)

社協

シニアの多いアステ(民間の商業施設)や図書館

お金と時間のあるシニアが多いジム

お寺(市内10寺以上ある)は、月5回寄り合いがあり、来た人同士で自分たちの活動を紹介している
生活に根付いたスーパーはどうか

川西市がスーパーのレジ袋を買い取り、カードを入れて無料でくばる

- ・福祉有償運送サービスは世間的になじみがない
- ・デイサービスを居場所づくりにしているが、コロナで中止している
- ・コミュニティに団体があったら力強いと思うが、コミュニティと自治会は同じ人が役員になるし、自治会は独自でできるからあまり向いてもらえない。NPOと地域の関係性は難しい

感想

- ・困りカードの絵が深刻に見える。
- ・おける場所がわかれば、づくりがいがある。

ワークショップ『多田コミュニティ（防災士）』（R2.11.28）

スケジュール

- 1 トラップを仕掛ける会の紹介
- 2 自己紹介
- 3 カードづくりの説明と実践
- 4 ふりかえり
- 5 まとめなど

1 トラップを仕掛ける会の紹介

2 自己紹介

防災士 北島さん

- ・ 趣味として子供たちに日本語を教えている
- ・ 火曜日 小学校で教えている
- ・ 金曜日夜 総合センターで中国人に教えている。他、子供2人も来ている
- ・ 幼稚園児も教えたいと思っている
- ・ 防災士になったきっかけは、外人に教えるのに役立つと思った

防災士 佃さん

- ・ 多田コミでスポーツ推進委員 今日もこども教室の手伝いでこどもたちに走り方教室をしてきた
- ・ 普段は子供3人いる。 主人が単身赴任 パートもしている
- ・ 防災士になったきっかけは、会長に声かけられた

メリット 近所一人暮らしのお年寄りや外に出ない人が多いのでいざという時に(震災があれば)役立つかなと思う

防災士 前川さん

- ・ 青少年育成市民会議の手伝いをしている
- ・ コミュニティもしていて、地域に関わることが多い。
- ・ 防災士になったきっかけは、会長に声掛けられた
- ・ 防災士がブースをつくったりしていたので興味もった。自分の中できちんと学べたらいいなと思っている
- ・ 子どもと関わる仕事をしていて、避難訓練をしているので意識がある

防災士 茂手木さん

- ・ 5年前 自治会長していた
- ・ ダイハツ工業に勤務していて組合にかかわっている
- ・ 東京出身で、地元ではないので知り合いがいらない中、仕事優先にできる範囲で地域の活動に参加し地域

に溶け込んでいる。

- ・組合の活動を手伝って、研修の講師をしている中で、いろんな部署に知り合いができて回っている
- ・防災士は、消防団の副団長で、勉強はこれから

多田小コミ 自主防災会 会長 男性 尾持さん

- ・防災士になったきっかけは、会長の声掛け
- ・高校三年生のとき大震災があり 神戸のボランティア経験者
- ・作業療法士 宝塚市 会社 防災委員会に入っている

トラップを仕掛ける会のメンバーの紹介

市役所のあいさつ

3カードづくりの説明（名木田さん）

- ・「やる気があり積極的だが取り組めていない方を巻き込んでいくには」
- ・取り組めていないのは「知らない」「入りにくい」ことが原因
- ・自治会、コミュニティ、市民活動団体、NPO 法人がどのような活動をしているか知るきっかけとして
トラップカードを作成することになった
- ・心がけたことは、「手に取りやすい」「目をひくこと」。文章だけだと最後まで読んでもらえない
- ・トラップカードを手にとってもらうことを目標にした
- ・トラップカードの表面は具体的な人物像、裏面は参加したくなるような内容を箇条書きに記入する
- ・市民活動団体とかが自分たちで作成することによって、各団体の特徴などブラッシュアップして更新
していくことができる
- ・ターゲットによって感じていることが多様なため表面には最低限、年代別に作成したほうが良い。裏面
には、防災士さんになってよかったメリットなど記入する
- ・このトラップカードをみることで、どのような団体かイメージしやすい
- ・各種、さまざまなアプローチ方法を伝えられたらよいので、団体にたどりつきやすくする QR コードの
作成とか、SNS、検索キーワードなど記載できればよい
- ・自分たちのことばで作成できたら市民のかたにささりやすいキーワードになると思う
- ・カードの活用法としては、イベントで配布するか、広報に載せるか、掲示板に貼ってちぎって持って帰
られるような仕組みをつくりたい。見るだけなら手に取らないけれど、カードをひもでくりつけて
「これなんだろう」と思って持って帰られるようにできる場所も必要であるので提案したいと思う

2つのテーブルでカードづくりをはじめ

**(事務局): 2つのテーブルが近くてボイスレコーダーの声が入り交じり、聞き取りずらくて、雰囲気
だけをかきだしています。**

女性グループ

防災士さんと部会のメンバーが話し合いながらトラップカードを作成する

- ・ターゲットのイメージ
- ・活動の場はあるが実際どうやって動こうか
- ・防災士を増やすにはというよりかは、中心のなるメンバーはひとりだけれど、防災に関心を持てる人をどのように増やして困ったときにどのように助けられるかということ具体的に考えられる人を地域に増やせるかを考えたらいと思う
- ・テーマは、来週の避難訓練にどのようにしたら若い方々が参加してもらえるかとする
- ・防災訓練に参加するのもハードルがある
- ・イベントに来ていただけないと始まらないので来てくれる方法を考える。例えば、小さい子ども連れや、年配の方など
- ・どんな人がきてくれたらよいか
- ・どういう属性の人が来るのか
普段は自治会活動をしていて、そこで声かけられたひと
自分のお得や子どもにとっても経験になればよい。
コロナの影響が
避難訓練は体育館で行う
冬はウィルスが気になる。コロナ対策などはどうしているのかということを見に来てほしい。コロナで避けていると思うので、だからこそコロナ禍での避難方法を知ってもらいたい
- ・カードの表面はコロナで、裏面はコロナ対策のことを記入する
ソーシャルディスタンスの取り方とか知ってほしい

以上のようなことを話し合い、まとめとしては来週の避難訓練にどうすれば若い方とか、関わりのない方が参加してくれるかであって、どのような形でやっていけばよいか、みんなが参加しやすいイベントのつくり方などに重点的に話し合った。カードづくりまで辿り着かなかった

男性グループ

防災士さんと部会のメンバーが話し合いながらトラップカードを作成する

- ・テーマを「防災士を増やしたい」とすれば、ターゲットのイメージを決めて防災士のメリットなどを出す
- ・年齢も絞ったほうがよい
- ・若い方のイメージは、地域活動に関心がない。自治会やコミュニティを知らない可能性がある
- ・サラリーマンは、今以上に忙しくなると・・・
自治会から誘われて加入したり、コミュニティも子どもを通じて知った
自治会に関わるきっかけは、当番制
- ・自治会に関わることについてのアドバイスはあるか
「気楽でいいんだよ。みんな手伝ってくれるし、自分のできる範囲で活動できる
- ・しんどいことばかりではない。ワキアイアイ。
関わってみて感じるのは、いろいろ教えてもらったり、ものごとの考え方など仕事に活かせるし、役に立つことがわかる
- ・他どんなことが役立つか

イベントなどでごみの捨て方。

- ・30代はメリットを求める

メリットを見い出さないといけないと思う。自治会長していたとき、メリットを聞かれたが反対にデメリットは何ですかと聞き返した。メリットは求めてはいけない

- ・自治会は、行事をやってあげている感がある

- ・コミュニティの防災士についてのカードづくりではどうするか

今のメンバー5名がコアになり、次世代の方に入ってもらい地域の安全・安心の発信が多くできたら良いと思う

- ・現在、防災は地域の心配ごとであると思うが。

そのことを踏まえての防災士になったことのメリットは

意識がちがってくる。散歩しているときに見方が変わる。危ないところに気づく

以上のようなことを話し合っていた

4ふりかえり

防災士の方々からの感想

北島さん

- ・時間がほしかった アイデアがあふれてきた

最初は、悩みからはじまり、アイデアが出始めてまとめられなかった

佃さん

- ・テーマは避難訓練で同じメンバーでやっている

- ・若い方に初めて来てもらうにはコロナ禍の心配があって コロナ対策を見ていただくのが良いので宣伝に使えたらよい

- ・家にある防災グッズが眠っているので、この機会に家の防災グッズを確認してもらう

実際に持ってきてもらってOKなので、足りる足りない、いるいないの確認をする

人の防災グッズが気になる。ゲーム感覚で見せ合ったりできると子供も楽しめる

- ・ワークショップの話し合いで出たことで、うちの中で電気ガスが使えない体験できればと思う。こどもと一緒にできる体験。ワクワクするゲームができればおもしろい

・体育館にてひとり一帖のスペースでいつもしている。このご時世、ソーシャルディスタンスであふれる人がでる。なので、グラウンドでテントをたてて実際過ごしてみる

鈴木会長

- ・自分自身の委員での参加の経験から、自分のことを考えるきっかけになった

藤本先生

- ・カードをつくることから得るノウハウよりも、工夫を得られる気づきがある

茂手木さん

・自分の活動のなかで、悔いがなく得たことが多い。それを他の人に伝える難しさがある。仕事に活かせるところがあった。おじいさんの知恵というか自治会に加入すると役立つこと多いと伝えられるようにしたいと思っていた。

こういった中、自分自身で確認できたので良かった

尾持さん

- ・ 1 から防災士を誘うのは難しいことなのだと感じた
- ・ 将来困るのは自分たちなので、今回のワークを通じて得るものが多く感謝したい

鈴木会長

- ・ ターゲットが 30 代 男性。仕事が忙しく、地域で何があったという確認ができない家庭。

そういう人が、トラップカードを見ることによって、コミュニティの活動を知ることによって「自分もできるかもしれない」というきっかけがつかえることができるのではいかと感じた

カードの置き場所を、コミュニティの活動の時、ターゲット像に近い人に受付で渡したり、きっかけづくりになるのではと思う

コミュニティに関わっているおじいおばあがおらず、核家族なら気づかないと思うので、きっかけを作って渡せる場所を増やしてあげればおもしろくなる

(藤本先生) 例えばイベントをする会議をするときに第 3 者が入るとナイスアイデアがでるのではと思う。慣れているメンバーだと新しい発想が出てこないと思う

5 まとめやみんなの意見

- ・ 地域の活動に参加すれば、今まで出会ってこなかった人と出会うことで刺激になると思う
- ・ 地域によってコミュニティが違うので、そういう情報を発信できれば良いと思う
- ・ 実際にコミで活動しているひとたちの会議を動画などで紹介してはよいのではと思う。
動画のほうがわかりやすいのでQRにする。実際のメンバーを紹介しておく
- ・ リモートでも OK なのは。イベントに行かなくてもわかって良いと思う
- ・ 関わりかたもいろいろで、気楽に参加して OK
- ・ 今回のワークショップでは、不満や愚痴がでなかった
- ・ お年寄りには愚痴が多い

事務局案（提言書用）

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和 2 年度第 5 回 A 部会 事務局案 (提言書用) (R3.1.22)		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和 3 年 1 月 22 日 (金) 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分		
開催場所	川西市役所 4 階 庁議室 (ウェブ会議システムにより開催)		
出席者	委員	藤本真里、加門文男、鈴木光義、乾美由紀、田中真、名木田 絢子、三善知子、赤木牧子	
	その他		
	事務局	総合政策部副部長兼参画協働課長、同課長補佐、同課主任 2 名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事 A 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取 り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p>3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局にて進行。

2 議 事

A部会テーマ

「（地域・市民活動に対して、）

やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

本日の進行について

本日は、全体会での発表資料をもとに議論を深め、提言書の作成を進めていく
提言書の内容は、市民の思いや、市に対して『して欲しい、すべきこと』の提案が重要
であるので、念頭に踏まえて意見を述べてほしい

<スライドの情報共有画面より>

現状と課題

解決のためのマッチングカードづくり

カードによって得られる効果

二次元コードの活用

継続させる（根づかせる）ためのしかけ

カードの設置場所

年度末までの検討課題

解決のための待ッティングカードづくり

議論の内容

合同ワークショップについて

ワークショップの開催時間は2時間。そのうち待ッティングカードづくりの時間は、40分とタイトであるので、一つの団体について話し合う時間が短くなるがその形でいいか

模擬ワークショップの経験からすると、「時間が足りない」感じの終わり方で、浅い議論

となる。マッチングするにも想定の仕事が各々あるので難しい

私の考えは、その日は1グループのみに待ッティングカードを作ってもらい、もう一つのグループは客観的にアドバイスする体験をしてもらうイメージであった。しかし、セッティング日程等々を考えると難しいかもしれない

時間を十分にとると、1グループを詳しく丁寧にできてみんなにとってわかりやすいカードづくりになると思う

単体グループで第三者の進行役がいるイメージ

ファシリテーターがいないと、集まって挨拶して終わりになる気がするので、第三者の視点は必要だと思う

カードづくりのやり方について、ア～ウのどの方法がよいか意見をのべてほしい

ア 従来どおり付箋に書いて貼る形式

イ 用紙を付箋のように使って床に並べる形式

ウ 、 あたりのことは、こちらから指定はしない

太マジックで大きく書くとわかりやすい

参加者がA4用紙に書く速度で進めることが、じっくり進められるポイントだと思う

団体の参加人数について

何人ぐらいで想定するかは、団体の規模によると思う

現状は、何人ぐらいがいいという程、実例がない

人数制限は、興ざめする。少ないと困る

提言書には、基本的な提案書にして細かな記載は必要ないと思う

例えば、1グループに4~5人が望ましい

カードによって得られる効果

特に議論のポイントはなく、資料は2枚で十分である。文章が長いと読んでもらえない

先日の全体会での報告を聞いたとき、非常に楽しく感じたので、これでよいと思う

『二次元コードの活用』

動画作成について、どのような内容がいいか、動画内容のイメージとしてはア~ウの提案

があった

ア 団体のインタビュー形式

イ ワークショップの雰囲気

ウ カードのつくり方

Gメール取得や動画サイトのアカウントを取得する作業が必要であり、またその管理をどうするか

提言書にはQRコードの作成方法を提示するのみでよいと思う

川西市のアカウントを使用した動画サイトに限定公開できればそれを提言書にのせるのはおもしろいと思う

継続させるためのしかけ

議論したいポイント

『委員の任期はこの先終了。その後、方法の提示だけで続けられるか』

市のマッチング制度に組み込んでしまう

(仮称) マッチング隊として、有償であれば関わり続けられるかもしれない

地域の中で、継続につながる広がりを出し掛けるために、模擬ワークショップの経験をさせて頂いたお礼として、活動を続けて行こうと思う

自分が地域活動する中で、カードづくりのサポートができることは、有意義な活動になると思う

ひらいてむすんでA部会の存続させて、別の形での定期的な集会

次期参画と協働のまちづくり推進会議に現在のひらいてむすんでA部会メンバーの誰かが加入する

数珠つなぎ式で、お困りごとを持ち込んだ団体が、次のお困りさんのサポートする

サポートする団体のイメージはどんな感じか

正体不明の団体がコーディネートするよりも、川西市公認の団体がサポートすると安心だと思う

例えば、防災に関するイベントなら防災士が派遣されるなど、専門性のある団体

他の意見

報告できる場所があれば、継続する楽しみになる

継続する効果として、イベントごとにそれにふさわしい人が欲しいというカードを用意して配布することだと思う

次へつながるもの、実践できる何かの形を提案して終了すればよいと思う

カードの設置場所

・(議論の前に) 全体会の会議で提案頂いたことで、公共施設の中に学校が抜けていたので追加する

議論のポイント

民間施設に設置するのは難しいので、市の公認団体の存在が必要だと思う

民間施設に対するメリットを提示する必要がある

ex. 社会貢献、地域貢献、およびお店の知名度が上がるなど

募集対象に合わせた設置がキーワードであって、その地域のスーパーや公民館など、その場合事務局はどうするのが課題である

範囲を広げて設置した場合は、市としては規模や分量によるが、できるだけ調整などのサポートはさせていただきたい

実態のない状態で、公共的な答えが出ないのは当たり前であるので、こういう方向性があるという意見としてまとめてはどうかと思う

他、提言書に追加するものについての確認

カードづくりの仕組みが広がればいいなという「あなたが対象ですよ」と感じさせる委員全員のコラムを入れる

今後の作業イメージの確認

画面共有のパワーポイントの資料は、プレゼン用で細かい説明がないので、前後を充実させて、初めて見た人に「何故このようなことを言っているのか」わかるように提案書にいれないといけない。資料には、現状と課題となる盛り込むべき内容を入れて、全体の内容はこうなるという提言書の素案ができるようにしたいと思う。

次回までに今期の推進会議の満期終了後、市は、住民はどうするべきか、（仮称）マッチング隊はどうするかなどのアイデアを考えていただきたい。

3 閉 会

○事務局

次回は、2月12日（金）19時からZoomで開催

事務局案（提言書用）

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和 2 年度第 6 回 A 部会 事務局案 (提言書用)(R3.2.12)		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和 3 年 2 月 12 日 (金) 午後 7 時 00 分から午後 9 時 15 分		
開催場所	川西市役所 4 階 庁議室 (ウェブ会議システムにより開催)		
出席者	委員	藤本真里、加門文男、鈴木光義、乾美由紀、田中真、名木田 絢子、三善知子、赤木牧子	
	その他		
	事務局	総合政策部副部長兼参画協働課長、同課長補佐、同課主任 2 名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事 A 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取 り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p>3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局にて進行。

2 議 事

A部会テーマ

「（地域・市民活動に対して、）

やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

本日の進行について

. 前回の議論から、今後の展開を話し合う

議論の内容

運用の流れや市役所との関係について

議論の内容

- ・ 川西市と、カードづくりをお手伝いする団体が協働関係にあれば、信頼されて地元に入りやすい
- ・ 民間の施設へカードの設置は、市民グループ単独では難しい。お手伝いする団体（市の後ろ盾）で掲示 窓口をどうするか検討が必要
- ・ 防災士会のような形式で（仮称）マッチング隊として関わる
- ・ 市民活動センターとの関わり方
- ・ 協力する民間企業にとってのメリット
- ・ 市の（仮称）マッチング制度の合わせ方

今後の展開についての意見

市がどう取り組んでくれるのか、はっきりしてもらえないと前に進めないと思う
こちらのまとめたものを市役所で活用してもらい、各地域コミュニティの役員などを
集めて（仮称）マッチング隊を派遣する

市長や、市職員にカードづくりの『良さ』を体験してもらおう

お困りのある団体がカードづくりを通じて振り返る機会ができて、募集のハードルを
下げることになると思う

市職員の研修に（仮称）マッチング隊を派遣する

市民活動センターでの関わり方については、センターは『団体グループをつくりたい』
が支援の仕方が難しい

協力する民間企業にとってのメリットは、社会貢献（SDGs）、地域貢献

企業もどう取り組めば良いかわからない。まずは「待ッティングカード」の設置で地域
への貢献内容から地域課題を知り、協力や、ビジネスチャンスへと繋がる可能性がある
と思う

カード作りを報告しあう場があれば、互いのよい刺激になる

マッチング制度について

. 提言書についての確認

二次元コードの活用について

- ・ 動画サイトの市アカウントを使用して『QRコード作成方法』の動画を限定公開する
- ・ 提言書に二次元コード『QRコード作成方法』を貼り付ける

全体会の提言方法について

当日、欠席者、および遅刻者がいるため、事前に提言の録画を実施する

3月12日（金）Zoomによる録画を実施

発表方法 担当 タイムスケジュールについて

< 発表スライドの目次より >

- ・ 現状と課題 1分 (加門)
- ・ 解決のための待タッチングカードづくり
4分 (赤木)
3分 (名木田)
- ・ 実践のための工夫
1分30秒 (田中)
2分30秒 (三善)
2分 (乾)
- ・ 今後のために 1分 (鈴木)

コラムについて

- ・ 各委員から提出されたコラムについての確認内容
ex. 形式、タイトル、委員名の入れ方、A部会委員の名前一覧の添付について

3. 『市職員の研修に取り入れては』の意見についての議論

市民事務局が、市職員の研修を毎年実施していて、『知らない世界の話し』の研修なので、いつも『どのようにしたら活動団体の持つ課題を共有してもらえるか』悩む。なので、市民団体になりきって課題をだしてほしいといっても、表面的なことしか出てこないのではという気持ちになる

市職員に、カードを使って役所の困り事など見直してもらい、カードの魅力を実感してもらいたい

市職員を対象にしても効果はないと思う。しかし、第三者的に様子見る事は大事だと思う

市職員は、役所のことには触れずに、A部会の一員となって活動したらいいと思う

ワークショップでは、カード作成の過程で、お互いにいろんな話しが出てくる。本当に『ひらいてむすんで』を実感するので当事者として議論に入らないといけないと思う

4.事務局より

- ・提言書および参考資料の提出は、3月10日までをお願いします。また、両部会から提出された資料を印刷して委員に郵送します。

3 閉 会

○事務局

次回 3月12日(金)19時から 全体会の提言録画をZoomで開催

